

2023（令和 5）年度 事業報告書

（2023（令和 5）年 4 月 1 日から 2024（令和 6）年 3 月 31 日まで）

学校法人 松蔭女子学院

目 次

理事長、学長、校長メッセージ	1
----------------	---

I 法人の概要

1. 法人の名称、主たる事務所の所在地	4
2. 法人設置の目的、建学の精神	4
3. 学校法人の沿革	4
4. 設置する学校、学部学科、入学定員等	6
5. 学生・生徒数の状況	7
6. 収容定員充足率	8
7. 役員(理事・監事)に関する事項	8
8. 評議員に関する事項	9
9. 教職員に関する事項	10
10. 校地・校舎等面積	11

II 事業の概要

1. 法人	12
2. 中学校・高等学校	
(1) 執行部関係	15
(2) 職員会議、その他委員会等の開催状況	15
(3) 教学関係	15
(ア)新型コロナウイルス感染症に係る対応 (イ)2023 年度学校運営方針および指導の重点 (ウ)中学校の学び (エ)高等学校の学び (オ)式典・学校行事 (カ)英語・グローバル教育 (キ)総合的な学習、探究学習の取組み (ク)進学対策・受験指導と高大連携 (ケ)いじめへの対応、ニーズがある生徒への「特別支援」 (コ)人権教育、 性教育 (サ)キリスト教主義教育 (シ)生徒会活動、課外活動、学外の個人活動 (ス)安全教育、防災教育 (セ) 学校 IT 化、ICT 教育推進 (ソ)中学・高校の入学数および全校生徒数、中学・高校卒業生数	
(4) 入試・生徒募集関係	27
(ア)入試説明会実 (イ)2024 年度 中学入試結果 (ウ)2024 年度 高校入試結果	
(5) 進路関係	29
(ア)高 3 の進路状況全般 (イ)2024 年度入試での外部大学進学者数一覧	
(6) 施設・設備関係	30
(7) 中期計画(及び事業計画)の進捗・達成状況	30
3. 大学	32
(1) 執行部関係	32
(2) 教授会開催状況	32
(3) 教学マネジメント会議	32
(4) 教学関係委員会開催状況	32
(5) 教学関係	33
(ア)教育課程(カリキュラム) (イ)ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー (ウ)教育への ICT の導入 (エ)卒業時アンケート (オ)卒業生数 (カ)標準修業年限で卒業した学生の割合等	
(6) 大学院教育	34
(7) 学生生活関係	35

(ア)課外活動 (イ)学生生活 (ウ)大学祭(松蔭祭) (エ)ハラスメント対策 (オ)学生支援室 (カ)学生相談室 (キ)保健室 (ク)学生寮 (ケ)松蔭 CP (チャレンジプログラム) について (コ)キャンパスにお ける安心・安全対策 (サ)教育後援会について	
(8) 国際交流関係	41
(ア)語学研修・海外インターンシップについて (イ)セメスター留学について (ウ)学科別海外研修について (エ)外日本語教育助手について (オ)受け入れ留学生	
(9) キャリアサポートセンター関係	42
(ア)学生の就職支援 (イ)就職状況 (ウ)主な就職先	
(10) 入試関係	43
(ア)本学の入試制度 (イ)広報関係 (ウ) アドミッション・ポリシー	
(11) 施設・設備関係	45
(12) 情報インフラ整備関係	45
(13) キリスト教センター関係	45
(ア)ヌーンサービス (イ)特別礼拝 (ウ)式典 (エ)募金活動 (オ)ボランティア活動 (カ)結婚式 (キ)公開行 事・イベント (ク)会場提供	
(14) 図書館関係	47
(ア)図書館 (イ)学術研究委員会	
(15) 社会連携・社会貢献	48
(ア)社会貢献 (イ)人材育成 (ウ)産官学連携 (エ)高大連携、地域の教育機関等との連携	
(16) 言語科学研究所	50
(ア)機関誌の発行 (イ)研修員・研修生の受け入れ (ウ)国内外の研究者による研究発表会・研究講演会の開催 (エ)ウェブサイトによる情報の発信	
(17) 外国語教育センター	51
(18) 情報教育センター	51
(ア)情報教育・コンピュータ教室関係 (イ)学内ネットワーク関係	
(19) 神戸松蔭こころのケア・センター	52
(ア)教育活動について (イ)心理相談活動について (ウ)研究活動について (エ)広報活動について	
(20) キャリア教育センター	52
(ア)学生の就職支援 (イ) 民間企業との連携 (ウ)課外講座	
(21) 教職支援センター	53
(ア)教職課程および保育士養成課程の認定状況 (イ)課程履修者数 (ウ)保育・教育実習に参加した学生数 (エ) 保育士資格および教育職員免許数の授与件数 (オ)就職実績 (カ)教員採用試験対策セミナーの実施 (キ)教職支 援センター年報	
(22) 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況	55
(ア)教育 (イ) 学生生活 (ウ)研究 (エ)社会連携 (オ)大学運営	

Ⅲ 財務の状況

1. 決算の概要	59
(1) 貸借対照表関係	59
(ア)貸借対照表の状況と経年比較 (イ) 財務比率の経年比較	
(2) 資金収支計算書関係	60
(ア) 資金収支計算書の状況と経年比較 (イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較 (ウ)財務比率の経年 比較	
(3) 事業活動収支計算書関係	62

(ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較	(イ) 財務比率の経年比較	
(4) その他有価証券の状況		63
(5) 借入金の状況		63
(6) 学校債の状況		63
(7) 寄附金の状況		64
(8) 補助金の状況		64
(9) 収益事業の状況		64
(10) 関連当事者との取引の状況		64
(11) 学校法人間財務取引の状況		64
2. 経営状況の分析と経営上の課題		64
3. 財産目録		66
4. 監事の監査報告書		67

IV 対処すべき課題

1. 中学校・高等学校の教育関係	68
2. 中学校、高等学校の生徒募集計画	68
3. 中学校・高等学校の施設・設備関係	68
4. 大学の新学部・新学科等の増設等	68
5. 大学の教育・研究関係	69
6. 大学の学生募集計画	69

学校法人 松蔭女子学院

2023（令和 5）年度 事業報告書

（2023（令和 5）年 4 月 1 日から 2024（令和 6）年 3 月 31 日まで）

大学共学化と学科名称変更決断の背景

理事長 中村 豊

2023 年度本大学入学者は今年も減少し、厳しい結果となった。「近隣女子大入学者推移」によれば、本学だけでなく、小規模女子大学の入学者数も減少傾向にあり、大規模女子大学を除くと、女子受験者が共学校に関心を持つ傾向が、本学の入学者減少に拍車をかけていることが分かった。

2016 年に施行された女性活躍推進法は、女性が自らの意志で働くことを希望し、自身の個性と能力を存分に発揮できる社会を実現することを目指している。この法律は、2020 年までに、指導的地位における女性の割合を少なくとも 30%にするよう求めている。しかし、日本における女性の働きやすい環境は、OECD 主要国の中でも依然として極めて低い水準にとどまっている。

一方、SDGs（持続可能な開発目標）4 の 1 は「2030 年までにすべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする」よう目標を掲げている。ほとんどの国では初等教育段階では男女の平等が実現されているが、現時点では、中等教育段階でこの目標を達成した国は少ない。

現在、日本の少子化や人口減少は企業の人手不足をさらに深刻化させている。特に生産年齢人口の減少は企業にとっては深刻な課題であろう。「400 社に聞いた企業の女性活躍推進（実態調査 2021）」によると、53%の企業が「女性社員の活躍・定着への取り組みは企業業績を高めることに好影響を与える」と回答している。ロールモデル不足が悩みの種であるが、これまで女性総合職・管理職採用に消極的だった企業も、女性社員登用に本腰を入れはじめている。

このように、中学校や高等学校で女性活躍推進法や SDGs について学び、労働力の減少が続く現実を目の当たりにした多くの女子受験生は、キャリア志向や共学化志向が強まり、家政系学部などよりも、経済・経営系学部や法学部などの方が総合職就職に有利であると考えている。理系分野における「ジェンダーの不均衡」という現実も無視できない。今、最も活躍の場が広がる理系分野において、女性が真に生き生きと活躍し能力を発揮することが期待されている。

この現実を正面から受け止め、慎重に検討した結果、本学は、これまで培ってきた家政系の学びを維持することが困難であるとの結論に至り、関係各位の同意を得て、人間科学部都市生活学科を人間科学科に名称変更することにし、食物栄養学科は募集停止とした。さらに、2025 年から共学化に移行することを決断した。また、英語学科をグローバルコミュニケーション学科に名称変更することも決定した。

今、世界では性の役割や概念が変化している。この流れに沿って共学化の実施により本学は、異なる背景を持つ学生同士が刺激し合い、成長する学習環境のなかで、“Open your future”にふさわしい人間を育てる教育を提供する所存である。

2025 年度からの共学化と大学名称変更に向けて

神戸松蔭女子学院大学

学長 徳山孝子

2024 年 4 月より本大学の第 16 代学長として就任した。今から 132 年前の明治時代中頃の松蔭女学校から出発し、現在の学校法人松蔭女子学院が脈絡と続く歴史の中に「共学化」という次世代に繋げる 1 ページを創っていくことになった。待田昌二元学長から受け継いだ中期計画を継承していくと共に 2025 年度の共学化に向けて邁進する所存である。

現代社会は、AI の普及による社会の価値観の変化、持続可能な社会に向けて地球温暖化をはじめとする環境問題の深刻化など、今までにない大きな変革期を迎え、多様な価値観を受け入れ、柔軟で創造的な思考によって新しい社会を作っていくことが求められている。2023 年 6 月には、「性的思考及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が公布され、様々な観点での多様性（ダイバーシティ）の理解と協働が求められている。これらの急速な社会の変化に対応するため大学改革が実施された。

本学大学院は 2000 年の発足時より男女共学であるが、学部についても 2025 年度から入学者に対して女子に限定しないこと、すなわち、共学化へと進むことになった。共学化に伴い、2025 年度より大学名称を神戸松蔭大学へと変更する。「女子」だけでなく「学院」についても名称から外した。本学の現在の英語名称 Kobe Shoin Women's University にも学院を意味する単語を入れていないことから、本学を短く言う場合に使われている神戸松蔭大学とし、英語名を Kobe Shoin University とした。大学モットー“Open Yourself, Open Your Future”及び「キリスト教の愛の精神を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心をもって社会に貢献する人材を育成することを目標とする」という教育理念は継承する。

2025 年度からは、大学の共学化と名称変更に合わせて、人間科学部の都市生活学科を人間科学科に、文学部の英語学科をグローバルコミュニケーション学科に名称変更。人間科学部に人間科学科、心理学科、食物栄養学科、ファッション・ハウジングデザイン学科、文学部にグローバルコミュニケーション学科と日本語日本文化学科、教育学部に教育学科を置く、3 学部 7 学科の構成である。人間科学科では、社会学、心理学、生活科学などの人間に関する学問と、人間を取り巻く社会の環境変化や高度化について学ぶ。そして、経済・経営の知識や ICT の活用能力を用いて、仕事や暮らしの中に存在する課題を解決する力を身につけ、人間らしい質の高い生活を送ることができる新しい共生社会を創造・提案し、地域に貢献できる人材を養成する。グローバルコミュニケーション学科では、異文化という多様性への認識を深めてコミュニケーション能力を磨く。それらの学びを、英語圏や韓国・中国へのセメスター留学、短期語学研修、海外インターンシップ、国内での国際交流活動など、それぞれに応じた国際交流で実践し、多様な人々が協働する社会を作り上げることでできる人材養成を目指す。

2024 年 4 月には、地域連携研究センターを設立した。このセンターを中心に、それぞれの学科が取り組んできた地域貢献の取り組みを連携・深化させることとなった。本学は、2024 年 1 月に設立総会が開かれた「大学都市神戸地域連携プラットフォーム」に参加した。神戸市を中心に神戸の大学と企業が連携して様々な地域課題解決に協働する組織である。学内の連携だけでなく、神戸市や企業、他大学と協働して、新しい共生社会の在り方を提案していくことを目指す。

「変わること」「変えないこと」 ―生徒の「財産」になる学びをつくる―

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井 宣光

「2023年8月18日、学校関係者に陽性判明」 感染症対応の記録をPCに入力し始めてから3年半、A4判269ページめの最終行である。シンガポールへの修学旅行が国内代替旅行に変更されたことを除き、5月には校内の感染症関連の制限をすべて撤廃した。食堂の営業も再開し、ランチタイムには笑顔があふれた。教室の「黙食（モクシヨク）」の毎日が児童生徒の精神に及ぼした影響について、またオンライン授業のために用意されたタブレットがネット依存、ゲーム依存を助長させた実状について、はたまた宿泊行事などが中止され、集団内での個の在り方を学ぶ機会の喪失が、人間関係の調整力や構築力の育成を阻害した可能性について等々、今後、研究者の論考が待たれる。

先日、外国人の来校者と正門で立ち話をしていた。朗らかな挨拶の声とともに登校する松蔭生を見て、“They look so happy.”と感心しきりだった。学校にお招きしたお客様が「この学校の生徒さんは、表情がやわらかいですね」と話してくれた。私自身も生徒を朝の校門で迎えながら、アフターコロナの学校で感じ始めていたことだ。学校活動の日々の繰り返し、ふつうの日常の在り方が教育の舞台では重要なポイントだと思う。コロナ禍とともに始まった中学ストリーム制が完成し、2023年度は高校のLS/AA/GLの新3コース制導入はこれまでにない空気感を校内に漂わせている。日常を取り戻した生徒たちの毎日と、学校改革で生まれつつある活気が、松蔭の新しいスクールイメージを形作る。

「スクールモットー “Open Heart, Open Mind”。松蔭に受け継がれてきたこの精神で、私はダイバーシティの扉を開いた。」 今春、一人の卒業生が記念文集に記した。創立以来、聖書の教えを人間教育の根本とし、祈りの時間を大切にしてきた。中高6学年の在籍生徒数は500名台後半で戦後校史上最小だが、彼女らが聖歌集を手に全校礼拝で響かせる歌声は、私のこの学校での勤務歴で最大かつ最良である。

豊かな人間性を育んできた伝統を「変えないこと」を意識し続けなければならない。一方で、これからの時代、質の高いグローバルスタンダードの教育の提供を目指して「変わること」も必須である。これからも実に松蔭らしい、と評される学校改革を追求したい。件の卒業生が文集に寄せたタイトルは「私の財産」である。

Ⅰ 法人の概要

1. 法人の名称、主たる事務所の所在地

法人の名称：学校法人松蔭女子学院

主たる事務所の所在地：兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町 1 丁目 2 番 1 号

電話番号（代表）：078-882-6122

2. 法人設置の目的、建学の精神

学校法人松蔭女子学院は、建学の主旨たるキリスト教精神に基づき、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に則り教育事業を行うことを目的として、1951(昭和 26)年に設立された。現在は大学院、大学、高等学校、中学校を設置し、いずれにおいても聖公会キリスト教精神に基づく教育を実践することを目的に、知識習得や勉学・研究内容の向上だけではなく、人格の完成と心身ともに健康な社会人を育成することを教育目標としている。

【松蔭女子学院のモットー】

聖書にイエスの言葉として以下のように書かれている。

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る」(マルコ 4:30-32)

イエスは、小さなからし種でも、この種に、姿かたちを変えながらの成長を期待して神の愛と恵みが注がれるならば、やがて鳥が枝に巣を作るほどの木になると約束した。

松蔭女子学院という場での学びを通して、絶えず自分を見つめ直して古い殻を破り、新しい自分を発見することによって個性を確立し、社会に貢献する女性としての成長を促すのが松蔭女子学院の教育理念である。

3. 学校法人の沿革

明治 25 年 1 月 英国聖公会 S.P.G.より派遣されたヒュー・J・フォス師らによって、神戸市山本通（現在の北野町）に松蔭女学校創立

明治 32 年 12 月 文部省より私立学校令による設立認可

明治 44 年 5 月 文部省より専門学校入学者検定第 8 条第 1 号による指定を受ける

大正 4 年 4 月 私立松蔭高等女学校に改称

大正 11 年 3 月 私立松蔭高等女学校財団法人設立

昭和 5 年 4 月 専攻科設置(修業年限 1 年)

昭和 22 年 3 月 松蔭女子専門学校設立認可

昭和 22 年 4 月 学校教育法により松蔭中学校設置

昭和 23 年 4 月 学校教育法により松蔭高等学校設置

昭和 25 年 3 月 松蔭女子専門学校廃止、松蔭短期大学(英文科、キリスト教科)設置

昭和 26 年 3 月 学校法人松蔭女子学院寄附行為認可

昭和 28 年 4 月 短期大学に服飾科増設

昭和 35 年 4 月	短期大学に家政科増設
昭和 37 年 4 月	短期大学に日本文学科増設
昭和 41 年 4 月	松蔭女子学院大学(文学部 キリスト教学科、英米文学科、国文学科)設置、これに伴い短期大学キリスト教科、日本文学科を廃科
昭和 44 年 4 月	短期大学学科呼称変更、英文学科、服飾学科、家政学科と改称
昭和 49 年 4 月	松蔭短期大学を松蔭女子学院短期大学と校名変更
昭和 55 年 4 月	六甲学舎第 1 期工事竣工に伴い、短期大学青谷より移転 大学キリスト教学科廃科
昭和 56 年 4 月	六甲学舎第 2 期工事竣工に伴い、大学垂水より移転
昭和 56 年 9 月	六甲学舎第 3 期工事竣工、大学・短期大学統合学舎完成
昭和 61 年 4 月	短期大学英文学科専攻課程設置(英文学専攻、英語学専攻)、家政学科専攻課程設置(生活科学専攻、食物栄養専攻)
昭和 61 年 4 月	短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養士養成施設として指定される
平成 3 年 4 月	短期大学服飾学科を生活造形学科、家政学科を生活科学科に名称変更
平成 4 年 4 月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
平成 4 年 9 月	学院創立 100 周年
平成 7 年 4 月	大学・短期大学の校名をそれぞれ神戸松蔭女子学院大学、神戸松蔭女子学院短期大学に変更
平成 12 年 4 月	大学院文学研究科(修士課程 英語学専攻、国語国文学専攻)設置 大学文学部に総合文芸学科設置 短期大学英文学科の専攻毎の学生募集停止(専攻課程廃止) 短期大学英文学科を英語コミュニケーション学科に名称変更
平成 13 年 4 月	大学文学部に心理学科設置
平成 14 年 4 月	大学院文学研究科博士課程(言語科学専攻)設置
平成 16 年 4 月	大学院文学研究科修士課程に心理学専攻設置 大学に人間科学部心理学科設置 大学文学部心理学科学生募集停止
平成 17 年 4 月	大学人間科学部に生活学科(都市生活専攻、食物栄養専攻)設置 短期大学生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)の学生募集停止 神戸松蔭女子学院短期大学を神戸松蔭女子学院大学短期大学部に校名変更 大学人間科学部生活学科食物栄養専攻が管理栄養士養成施設として指定される
平成 19 年	大学 60 周年記念事業実施
平成 19 年 9 月	短期大学部生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)を廃止
平成 20 年 4 月	大学人間科学部に子ども発達学科、ファッション・ハウジングデザイン学科を設置 大学文学部英語英米文学科、国文学科収容定員を変更 短期大学部英語コミュニケーション学科、生活造形学科の募集を停止
平成 21 年 4 月	大学人間科学部子ども発達学科が指定保育士養成施設に指定される

平成 22 年 4 月 大学文学部心理学科を廃止
 （財）大学基準協会 大学評価（認証評価）の結果、大学基準適合認定を受ける

平成 23 年 4 月 大学文学部英語英米文学科、国文学科の学生募集停止
 文学部総合文芸学科、人間科学部心理学科の収容定員変更
 文学部に英語学科、日本語日本文化学科を設置

5 月 神戸松蔭女子学院大学短期大学部を廃止

平成 24 年 学院創立 120 周年記念事業実施

平成 27 年 4 月 認定こども園松蔭おかもと保育園開園（系列社会福祉法人松蔭ミカエル福祉会）

平成 28 年 4 月 大学 （財）大学基準協会 大学評価（認証評価）の結果、大学基準適合認定を受ける

平成 29 年 3 月 大学文学部英語英米文学科、国文学科を廃止

4 月 大学人間科学部生活学科学生募集停止
 人間科学部に都市生活学科、食物栄養学科を設置

平成 31 年 4 月 大学教育学部教育学科を設置
 人間科学部子ども発達学科学生募集停止
 文学部英語学科の収容定員変更
 文学部総合文芸学科の学生募集停止

令和 2 年 4 月 中学校でストリーム制がスタート

令和 3 年 4 月 大学院文学研究科言語科学専攻（博士後期課程）の学生募集停止

令和 4 年 学院創立 130 周年

令和 5 年 4 月 高等学校 3 コース制スタート

令和 5 年 4 月 大学 （財）大学基準協会 大学評価（認証評価）の結果、大学基準適合認定を受ける

4. 設置する学校、学部学科、入学定員等

(1)神戸松蔭女子学院大学大学院

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町 1 丁目 2 番 1 号

入学定員

文学研究科	修士課程	英語学専攻	5 人
		国語国文学専攻	5 人
		心理学専攻	10 人
		合計	20 人

(2)神戸松蔭女子学院大学

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町 1 丁目 2 番 1 号

入学定員

文学部	英語学科	100 人
-----	------	-------

	英語プロフェッショナル専修	
	グローバルコミュニケーション専修	
	日本語日本文化学科	60 人
	小 計	160 人
人間科学部	心理学科	70 人
	都市生活学科	100 人
	都市生活専修	
	食ビジネス専修	
	食物栄養学科	60 人
	ファッション・ハウジングデザイン学科	60 人
	小 計	290 人
教育学部	教育学科	120 人
	幼児教育専修	
	学校教育専修	
	小 計	120 人
	合 計	570 人

(3)松蔭高等学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町 3 丁目 4 番 47 号

入学定員

全日制課程普通科 350 人

(4)松蔭中学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町 3 丁目 4 番 47 号

入学定員

315 人

5. 学生・生徒数の状況（2023 年 5 月 1 日現在）

神戸松蔭女子学院大学

学部	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
文学部	160	54	640	429
人間科学部	290	151	1160	899
教育学部	120	38	480	278
合計	570	243	2,280	1,606

神戸松蔭女子学院大学大学院

文学研究科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
英語学専攻	5	0	10	1
国語国文学専攻	5	1	10	4
心理学専攻	10	9	20	15
言語科学専攻	-	-	-	1
合計	20	10	40	21

※言語科学専攻は2021年4月から募集停止

松蔭中学校・高等学校

学年	入学定員	現員数
中学1年	315	72
中学2年	315	78
中学3年	315	65
合計	945	215
高校1年	350	135
高校2年	350	107
高校3年	350	97
合計	1,150	339

募集人員 中学校 150 高等学校 50（内部進学を除く）

6. 収容定員充足率

神戸松蔭女子学院大学

（2023年5月1日現在）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学部全体	87%	96%	96%	88%	70%

7. 役員（理事・監事）に関する事項

(1) 理事

定数：11人以上16人以内 現員：14人

	役職名等	勤務形態	氏名	現職	就任年月日
1	理事長	非常勤	中村 豊	理事長	平 28.4.4
2	常務理事	常勤	郡司 隆男	院長	平 20.4.1
3	常務理事	常勤	待田 昌二	大学教授・学長	平 28.4.1
4	常務理事	常勤	浅井 宣光	中高校長	平 22.4.1
5	常務理事	常勤	永井 良昭	法人事務局長	平 18.4.1
6	常務理事	常勤	坂本 真佐哉	大学教授・副学長	令 2.4.1
7	常務理事	常勤	片平 理子	大学教授・副学長	令 2.4.1
8	常務理事	常勤	芳田 克巳	高校副校長	平 23.4.1
9	常務理事	常勤	澤田 知之	中学副校長	平 30.4.1
10	常務理事	常勤	上野 智子	大学事務局長	平 30.7.1

11	常務理事	常勤	中川 雅博	中高教諭	令 4.4.1
12	理 事	非常勤	西原 興一郎	会社役員	平 31.4.1
13	理 事	非常勤	檜山 和司	会社役員	令 2.4.1
14	理 事	非常勤	山形 紀世美	同窓会長	令 2.4.1

(2)監 事

定数：2人以上4人以内 現員：2人

	役職名等	勤務形態	氏名	現職等	就任年月日
1	監 事	非常勤	山口 純	米国会計士	令 2.4.1
2	監 事	非常勤	光葉 正博	会社役員	令 4.5.27

(3)役員賠償責任保険の状況

- ・ 本学の役員等が、自らの業務に起因して損害賠償請求を受けた場合の役員の経済的・精神的な負担を軽減すると共に安定的な経営を行うべく、日本私立大学協会の団体制度である「私大協役員賠償責任保険制度」に加入している
- ・ 契約内容の概要は以下のとおり。
 - ① 保険期間:令和5年4月1日～令和6年4月1日
 - ② 支払限度額:500,000,000円
 - ③ 被保険者：理事、監事、評議員、管理職従業員、退任理事・評議員

8. 評議員に関する事項

定数：23人以上37人以内 現員：29人

	選任区分	氏 名	現職等	就任年月日
1	23-1-1	郡司隆男	院長	平 20.4.1
2	23-1-1	待田昌二	大学教授・学長	平 24.4.1
3	23-1-1	浅井宣光	中高校長	平 16.4.1
4	23-1-1	永井良昭	法人事務局長	平 12.4.1
5	23-1-1	片平理子	大学教授・副学長	令 2.4.1
6	23-1-1	坂本真佐哉	大学教授・副学長	平 28.4.1
7	23-1-1	芳田克巳	高校副校長	平 18.4.1
8	23-1-1	澤田知之	中学副校長	平 28.4.1
9	23-1-1	田中まき	大学教授	平 28.4.1
10	23-1-1	竹中康之	大学教授	平 20.4.1
11	23-1-1	上野智子	大学事務局長	平 30.7.1
12	23-1-1	高瀬小織	大学職員	令 2.4.1
13	23-1-1	中川雅博	中高教諭	令 4.4.1
14	23-1-1	大槻泰史	中高教諭	平 30.4.1
15	23-1-1	永井 晃	中高教諭	平 24.4.1
16	23-1-1	上原美由紀	中高教諭	令 2.4.1

17	23-1-2	松田宣子	大学教授	平 20.4.1
18	23-1-2	山形紀世美	大学同窓会長	平 29.4.1
19	23-1-2	トーマス三香	中高同窓会長	令 2.4.1
20	23-1-2	富士ひろ子	会社役員	平 29.6.1
21	23-1-3	中村 豊	理事長・聖職者	平 13.4.1
22	23-1-3	沼田弘志	学識経験者	令 2.4.1
23	23-1-3	小林尚明	聖職者	令 3.4.1
24	23-1-3	西原興一郎	会社役員	平 15.6.1
25	23-1-3	檜山和司	会社役員	平 22.5.29
26	23-1-3	安福 朗	中学校・高等学校校長	令 4.4.1
27	23-1-3	加藤巡一	学識経験者	令 4.4.1
28	23-1-3	平井豊和	学識経験者	平 24.4.1
29	23-1-3	沢松順子	学識経験者	平 26.6.1

9. 教職員に関する事項

(1)教 員

	(専 任)	(常勤講師)	(非常勤講師)
大学 文学部	25 人	—	53 人
大学 人間科学部	41 人	—	108 人
教育学部	24 人	—	43 人
(大学専任教員の平均年齢)	(54 歳)	—	—
小計	90 人		204 人
高 等 学 校	24 人	0 人	14 人
中 学 校	19 人	3 人	8 人
小計	43 人	3 人	22 人
計	133 人	3 人	226 人

(2023 年 5 月 1 日現在)

(2)職 員

	(専 任)	(非常勤職員)	(派遣職員)
法人本部	(* 6 人)	(* 1 人)	—
大 学	73 人	38 人	17 人
高等学校	7 人	12 人	—
中 学 校	5 人	5 人	—
計	85 人	55 人	17 人

* 法人本部職員は、大学、高等学校の職員が兼務 (2023 年 5 月 1 日現在)

10. 校地・校舎等面積

(1)校地等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六 甲 キ ャ ン パ ス	60,461.43
野 外 訓 練 場	16,049.00
大 山 ロ ッ ジ	32,853.00
青 谷 キ ャ ン パ ス	17,997.16
千 と 勢 会 館	795.46
合 計	128,156.05

(2)校舎等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六 甲 キ ャ ン パ ス	34,266.26
大 山 ロ ッ ジ	686.26
青 谷 キ ャ ン パ ス	21,975.89
千 と 勢 会 館	936.09
合 計	57,864.50

以上

II 事業の概要

1. 法人

学院運営のため、理事会、評議員会、常務理事会を以下のとおり開催した。開催日時、議案については次のとおり。

(理事会：4回開催、評議員会：3回開催、常務理事会：13回開催)

【理事会】

①日 時 令和5年5月26日(金) 午後4時30分～5時30分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 大学院文学研究科英語学専攻の学生募集停止の件

第2号議案 大学院学則変更の件

第3号議案 大学学則変更の件

第4号議案 決算の件

第5号議案 事業報告の件

②日 時 令和5年10月6日(金) 午後4時30分～4時45分

午後5時45分～6時10分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 次期大学学長人事の件

第2号議案 次期中学校・高等学校校長人事の件

第3号議案 大学 文学部英語学科の学科名称変更の件

第4号議案 大学 人間科学部都市生活学科の学科名称の件

第5号議案 大学の共学化(大学の名称変更)の件

第6号議案 リゾートトラスト出資金(基本財産)の処分の件

③日 時 令和6年1月26日(金) 午後4時55分～5時10分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 人間科学部食物栄養学科の学生募集停止の件

④日 時 令和6年3月22日(金) 午後4時～4時30分

午後5時45分～6時15分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 次期院長の件

第2号議案 次期法人事務局長の件

第3号議案 法人顧問の件

第4号議案 理事の退任、重任、就任の件

第5号議案 常務理事の退任、重任、就任の件

第6号議案 評議員の退任、重任、就任の件

第7号議案 監事候補者の件

- 第 8 号議案 私大協役員賠償保険への加入の件
- 第 9 号議案 千と勢会館売却の件
- 第 10 号議案 大学学則変更の件
- 第 11 号議案 大学院学則変更の件
- 第 12 号議案 寄附行為変更の件
- 第 13 号議案 共学化及び学科名称変更等に係る令和 7（2025）年度大学学則変更の件
- 第 14 号議案 共学化に係る令和 7（2025）年度大学院学則変更の件
- 第 15 号議案 監事の重任の件
- 第 16 号議案 令和 6 年度事業計画の件
- 第 17 号議案 令和 6 年度予算の件

【評議員会】

①日 時 令和 5 年 5 月 26 日（金） 午後 4 時 30 分～5 時 30 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 大学院文学研究科英語学専攻の学生募集停止の件

第 2 号議案 大学院学則変更の件

第 3 号議案 大学学則変更の件

第 4 号議案 決算の件

第 5 号議案 事業報告の件

（報告事項） 1. 決算の件

2. 事業報告の件

②日 時 令和 5 年 10 月 6 日（金） 午後 4 時 50 分～5 時 40 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 大学 文学部英語学科の学科名称変更の件

第 2 号議案 大学 人間科学部都市生活学科の学科名称の件

第 3 号議案 大学の共学化（大学の名称変更）の件

第 4 号議案 リゾートトラスト出資金（基本財産）の処分の件

（報告事項） 1. 次期大学学長人事の件

2. 次期中学校・高等学校校長人事の件

③日 時 令和 6 年 1 月 26 日（金） 午後 4 時 30 分～4 時 50 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 人間科学部食物栄養学科の学生募集停止の件

④日 時 令和 6 年 3 月 22 日（金） 午後 4 時 30 分～5 時 40 分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第 1 号議案 千と勢会館売却の件

- 第2号議案 大学学則変更の件
- 第3号議案 大学院学則変更の件
- 第4号議案 寄附行為変更の件
- 第5号議案 共学化及び学科名称変更等に係る令和7（2025）年度大学学則変更の件
- 第6号議案 共学化に係る令和7（2025）年度大学院学則変更の件
- 第7号議案 監事の重任の件
- 第8号議案 令和6年度事業計画の件
- 第9号議案 令和6年度予算の件

【常務理事会】

常務理事会は、原則として月1回開催し、学院の管理運営面の日常業務の処理に当たっている。開催日時・議案等については省略する。

なお、常務理事会の議決事項及び審議事項は次のとおりである。

（議決事項）

- 1.教職員の人事、服務、給与及び諸手当の執行に関する事項
- 2.職員の採用、昇任、昇格、異動、退職に関する事項
- 3.予算の執行に関する事項
- 4.全学に共通し、かつ、理事会の議決を必要としない諸業務の執行及び諸規程に関する事項
- 5.その他理事会から特に委任された事項

（審議事項）

- 1.理事会に提案する事項
- 2.建設計画に関する事項
- 3.教職員組合との協定に関する事項
- 4.その他理事会から特に付託された事項

以上

2. 中学校・高等学校

(1) 執行部関係

校 長	浅 井 宣 光
副 校 長	澤 田 知 之
副 校 長	芳 田 克 巳
教 務 部 長	大 槻 泰 史
宗 教 部 長	坪 井 智
生 徒 部 長	上 原 美由紀
総 務 部 長	吉 川 祐 子
進路指導部長	中 川 雅 博
入試広報室部長	小 林 裕 典
事 務 長	内 海 良 介
事 務 次 長	岡 田 知 子

(2) 職員会議、その他の委員会等の開催状況

全教員（専任教諭、常勤・特任講師）による定例職員会議を月1回開催した。また、各学期末に成績会議を持ち、年度末には修了・進級認定並びに中学校・高校の卒業認定を行った。学校運営に関する諸事項を決定する校務運営会議（校長、副校長、各校務部長）、校務学年主任合同会議（校務運営会議構成員、中高学年主任およびストリーム主任）を月1回程度開催したほか、教科主任会議（月1回）、各校務部会（月1回）、教科会議（月1回）を定例の会議とした。入試委員会は、入試制度、広報や説明会運営について検討、立案した。カリキュラム委員会は、今年度高1より設置している高校新コース制の運用について検討した。

(3) 教学関係

(ア)新型コロナウイルス感染症関連の学校活動制限の撤廃

前年度末時点で文部科学省より「新年度より学校でのマスク着用を求めない」旨の通知があり、また厚生労働省も、感染症法上の扱いについて、5月8日より従来の2類から5類に変更すると発表した。これらを受け、校内の感染症対応のガイドラインの改訂を行い、年度当初より順次、学校活動や生活面での感染症対策の制限を撤廃した。具体的には、マスク着用は任意とすること、昼食場所の制限撤廃や食堂営業の再開、部活動で使用する部室の利用制限の撤廃、毎朝のデジタルによる健康観察の取り止め、講堂の座席制限の解除、濃厚接触者など感染症関連の出席停止条件の変更等である。これら措置により、学校行事や国際交流プログラムなど全てのプログラムについて、コロナ禍前同様に実施した。ただし、高2シンガポール修学旅行については、入出国条件や現地滞在の制限等の可能性があったため、前年度の時点で国内代替研修旅行とすることを決定した。また、学校行事の内容についても、そのまま再開するのではなく、教育効果を鑑み精選、再編成する作業を各部署で行った。

(イ)2023年度学校運営方針および指導の重点

年度初めの教員会議で確認し、共通理解を持った。各部署では日々の教育活動に落とし込むこととした。

(2023年度学校運営方針)

- ①“Open Heart, Open Mind”の精神に立ち、多様性を認め合う学級、学校。
- ②自学自習の習慣づくりと学力向上をはかる取り組みがある学級、学校。

- ③「いじめ」行為を許さない学級、学校。
- ④人間関係構築力、調整力を育てる学級、学校。

(生徒指導の重点)

- ①身だしなみ、立ち居振る舞い。
- ②「いじめ」行為の予防、対応、再発防止。
- ③スマートフォン、デバイスの適切な利用の仕方と情報モラルの徹底。
- ④安全と災害への心構え（「大災害対応マニュアル」の確認）。

(ウ)中学校の学び

DS（ディベロプメンタル ストリーム）と GS（グローバル ストリーム）の 2 つの教育課程を運用した。両ストリームでは、生徒の適性に応じた異なる教育アプローチを行う一方、4 つの核となる分野（国語力、英語力、探究学習、ICT）における習熟度を高めようという方向性は同じである。

①DS の取り組み

各学年の共通の取り組みとして、手帳（中 1、中 2 は学校配布、中 3 は各自で準備）の携行と毎朝礼での記入指導を行った。ねらいは、時間管理・自己管理力の定着と学習習慣づくり、3 点（起床・就寝・勉強）の時間確認による自主的、意欲的な学校生活への姿勢を身に付けることである。授業では、日本語の基礎や表現力を育成する「国語探求」授業、一人一台のタブレットを利用して英語コミュニケーション力を育成する「ICT English」授業を学校特設科目として設けた。また、英語ネイティブ教員による英会話授業（「英語オーラル」）はグレード別（習熟度別）に実施した。探究学習については、後述の「奉仕活動の日」活動に関連付けて取り組んだ。また、理数系進路を視野に入れ、数学の応用力を育成する課外講座「数学特進講座」を各学年別に週 1 回、開講した。また、定期考査のほかに各学期に実力試験を実施した。

DS 中 1 では、学年目標「正しく問い、深く考える。～自分のこと、他者とのこと～」とし、学校生活の基盤である適切な人間関係構築力の育成をはかりつつ、自主的な学習姿勢を身に付けるよう指導した。土曜午後の「土曜勉強会」、每学期末の国語、数学、英語の「発展講習」や理科実験、実力考査実施後の問題解説の実施等により、学習意欲の向上をはかったほか、学力未到達者に対する支援として、国語、数学、英語 3 教科の補習授業を行い、学習方法を含めて指導した。

DS 中 2 の学年目標は、前年度に引き続いて「ともに歩む」とし、周囲の人と心を通わせて良い関係を作りことを心がける指導を行った。各定期考査終了後には学力未到達者対象の補習を行ったほか、長期休暇中の特別講座、希望者実力テストを実施した。

DS 中 3 は、学年目標を「彩（いろどり）」とし、個性を尊重し、多様性を認め合うことを根本として指導した。毎朝礼前の「朝の学びのとき」には、タブレットも利用して英語・数学・国語の自習を行った。希望者対象実力考査には約 3 割の生徒が申し込んだ。中学校の学習の総まとめとして基礎学力判定試験を実施したが、DS では過去問を長期休暇中の課題としたほか、プレテストとして受験日を設定した。

②GS の取り組み

GS では、中 1、中 2“Know the World: Embrace the Unknown.（世界の有り様を知り、未知との遭遇を楽しむ）”、中 3“Understand the world: Build Bridges.（世界の有り様を理解し、知

識を連結・統合する)を目標として指導した。「朝の音読」の時間では、学年ごと、または学年合同で日本語の時事ニュースや様々なジャンルの小説、演劇を題材に音読や「静読」、また、発声法のトレーニングにも取り組んだ。「ICT English」授業（オンライン英会話）を毎日実施し、土曜日は聖ミカエル国際学校連携の英語イマージョン授業を行った。日英両言語での情報収集する力やプレゼンテーションする力を段階的に育成するため、各学年の学期毎の「探究・教科横断テーマ」を設定した（表1参照。高校 GL 課程を含む）。これらの取り組みにより、国内の中学生段階としては非常に高度な英語コミュニケーション力を身に付けながら、探究学習のためのスキルを習得し実践した。学びの成果は、中学生段階で英検1級、準1級、2級合格者を続々と輩出している点、3学期の各学年の取り組みであるオンライン「世界合同プレゼンテーション」（英語によるグループプレゼンテーション）への参加、入賞（各アワード受賞）という結果、中3「フィリピン研修」において、現地で「英語を学ぶ」のではなく、社会問題やSDGsを「英語で学ぶ」ことを可能にした点などに現れている。中3はDS同様、3学期に基礎学力判定試験を受験した。

（表1）

↓更新日↓	松蔭GS(グローバル・ストリーム)・松蔭 GL(グローバル・リーダー) 探究&教科横断テーマ		
2023/4/1	1学期	2学期	3学期
中学1年GS 環境と防災	論理(具体と抽象)	論理(意見と根拠)	論理(意見と事実:主観と客観)
	ICTスキル	物の見方(時間・場所・立場など)	アイデンティティ
	国際社会の平和と発展(SDGs)	問いの想像と創造	地域性(Kobe in Japan, Japan in the world)
中学2年GS いのちと伝統文化	論理(グルーピング、多様な視点)	論理(対比、多様な視点)	論理(仮説と検証)
	女性と将来	賛否:答えのないもの	アイデンティティ
	国際社会の平和と発展(SDGs)	伝統(国や地域)と文化	受容と公正(オプ・ハート&オプ・マインド)
中学3年GS 私たちの社会	論理(予想される反論:反駁、展望)	論理(理由①と理由②のまとめ方)	論理(既習事項の連結及び統合)
	国際社会の平和と発展(SDGs)	未来デザイン(妄想、想像、創造)	アイデンティティ
	社会発展による恩恵と弊害	社会システム	日本と世界(グローバル視野)
高校1年GL 社会・環境・経済	論理(小論の構成と技法)	論理(対比、反駁、例示、婉曲)	論理(反駁、多様な視点)
	Well being vs Money	表現(対象、説得、興味関心)	アイデンティティ
	国際社会の平和と発展(SDGs)	地域性(地域と社会の関係)	環境と経済活動

(エ)高等学校の学び

高1は、LS（ランゲージ&サイエンス）・AA（アスリート・アーティスト）・GL（グローバルリーダー）の3コース制の初年度である。高2は新学習指導要領（新課程）1期生、高3は旧課程の最終学年である。

①高1LSコース

高1生徒数は135名（内部進学89名、高校入学生46名が）、うちLSコースが116名であり高校課程のメインコースとなっている。高1LSコース年間目標は「生きぬく力・思いやる心～自立・自律～」とし、その基盤づくりとして、手帳を活用した時間管理・自己管理を指導した。各学期には各種模擬試験のほか、校内推薦席次の資料となる校内実力判定試験など実力考查を実施した。「特進クラス」は、土曜④校時の特別補習「入試対策講座（英数国）」を必須受講とし、また、月曜日⑦校時には、LSコース希望者対象の「学びの興味を育てる放課後プログラム」を開講した。この講座は、各教科教員が様々なテーマについての演習や学外活動や、外部人材・卒業生との対話機会を設けた。以下に取り扱ったテーマを挙げる。

- ・神戸地裁訪問
- ・卒業生座談会
- ・教育実習生座談会
- ・理系進路の多様性

- ・神戸大学学生座談会
- ・星空観察合宿
- ・神戸イスラムモスク見学
- ・菓子作り
- ・石けんづくり

②高1 AA コース

AA コースは13名が入学したが、全員が高校入学生である。「千日の鍛錬一瞬の業」を合い言葉に、各生徒の専門種目（競技）と学業が両立できるよう指導した。コンクールや大会への遠征により欠席した生徒には、授業映像が視聴できるようにした。月1回の「AA 特別講座」では、トレーニング、心理学、栄養学、コンディショニング等の専門家による講義・演習を行った。本コースの「言語探究」では、各自がスポーツやトレーニングに関する課題に取り組み、研究成果をプレゼンテーションした。ユニークな試みとして、保健体育の授業で、各生徒が指導者役となってウォーミングアップ、ストレッチ指導を行ったり、朝礼前の5分間に集中力向上のためのトレーニング（例えばテニスボール2個を積む作業など）を実施したりした。各分野でトップアスリート、アーティストをめざす生徒が、互いに刺激を与え合いながら集う教室に漂う前向きな空気感は、本コース設置の趣旨が実現していることの証左である。

③高1 GL コース

中学GS1期生に高校入学生2名が加わり、6名の少人数クラスとなった。高校入学生の出願資格として英検準2級レベル以上の英語力を設定しているが、入学後、毎日の「ICT English」授業（オンライン英会話）とカナダでの1ヶ月研修による英語力伸長は目覚ましく、ほぼ全員がCEFR B2(英検準1級レベル)に到達している。

④高2

高2は「If you dream it, you can do it.」を学年目標とした。新学習指導要領の初年度にあたり、各教科ではシラバスを改訂し、学習と評価を一体化させた。特進クラスは国公立大、難関私大合格を目標とし、標準クラスは併設大を含む中堅私大への進学を目指した。始業前の「朝学の時間」には、各自のタブレットを利用した学習等に取り組んだ。各科目の放課後補習、英検対策講座、長期休業中の補習を実施した。

⑤高3

高3の学年目標は、従来の「自他を大切に」に、生徒発案のフレーズ「未来を、betterな選択で、私たちがつくる」を加えた。旧課程コース制の最終学年で、クラスの編成上、コースⅠ・ⅡSを合同クラスとし、コースⅡは2クラス編成とした。毎朝の始業前45分前からの自学自習の集まり「朝寺子屋」の取り組み、また、朝礼前の5分間全員学習も行った。学年独自の「自習室延長利用メイト」制度を運用し、下校時刻以降も高校自習室を利用できるようにした。

(オ)式典・学校行事

入学式（4/7 中学・高校合同）、高校卒業式（3/1）、中学卒業式（3/22）を挙行了した。

文化的行事としては、文化部の活動発表の機会として文化祭（4/28, 29）を開催した。全校団体鑑賞では、演劇鑑賞（6/8「アーサー王伝説」）を行った。DS中1、中2合同の「ピッコロわくわくステージ」観劇（5/27 尼崎市ピッコロシアター）、DS/GS中1は、社会見学実施後、音楽鑑賞会に参加した。（1/24 灘浜サイエンススクエア見学、兵庫県立芸術文化センターわく

わくオーケストラ事業) 中学では学年毎の「百人一首大会」のほか、DS/GS 全学年合同の英語コンテスト (3/9 英語スピーチ・レシテーションコンテスト。後述) を開催した。

健康安全・体育的行事としては、体育祭 (9/29)、各学期末の球技大会を行った。

旅行・集団宿泊行事としては以下プログラムを実施した。

修学旅行・宿泊研修

高 2 (10/23～27) 東北地方、東京ディズニーリゾート (シンガポール研修の代替)

DS 中 3 (10/24～27) 沖縄本島

DS 中 1 山のキャンプ (7/29～7/31) 鉢伏高原

DS 中 2 British Hills 英語研修 (10/31～11/2)

GS 中 2 直島アートの旅研修 (10/31～11/2)

GS 中 3 フィリピン研修 (2/22～3/6)

GS 高 1 カナダ研修 (10/7～11/5)

遠足 (5/2) : 六甲山系各コース

DS 中 1 摩耶山

DS 中 2 芦屋川～風吹岩～保久良神社

DS 中 3 谷上～森林植物園

GS (全学年)・GL 高 1 市ヶ原

LS/AA 高 1 再度公園 (修法ヶ原)

高 2 須磨浦公園 須磨浦山上遊園

高 3 布引ハーブ園

校外学習 (10/27)

DS 中 1 立杭焼き体験と丹波篠山

GS 中 1 淡路島ニジゲンノモリ

GS 中 3 大阪明治ファクトリー、読売 TV

LS/AA 奈良公園

勤労生産・奉仕的行事としては、サービスラーニングのプログラムである「奉仕活動の日 “SHOIN School Campaign”」活動を行った (後述)。キリスト教関連行事として、春と秋の宗教週間行事と特別礼拝を行った (後述)。

学外団体との連携行事・授業としては次の各講座を行った。

DS/GS 中 1 体育「ダンス特別授業 (11/8 OSK 歌劇団)」

DS/GS 中 2 体育「なぎなた特別授業 (11/15 神戸松蔭女子学院大学なぎなた部)」

DS 中 3 社会「企業分析の学生模擬授業 (7/11 神戸大学経営学部高田ゼミ学生)」

LS 高 1 「データサイエンス講座 (11/20, 22 メットライフ生命・神戸市連携授業)」

GS 中 3/GL 高 1 「企業会計」(3 回実施、神戸大学経済学部連携授業)

(カ)英語・グローバル教育

フルタイム勤務の英語ネイティブ教員を中学 DS 各学年、中学 GS/高校 GL に配属し、日常的に英語に触れる機会を設けた。DS 中学の英語オーラル授業は、グレード別 (習熟度別) 授業とした。学校特設科目「ICT English」では、タブレットを利用したスピーキング練習やオンライン英会話を実施した。中学 DS/高校 LS・AA では、英検 2 級以上に合格する取り組みをすすめ

るとともに、学校を英検本会場とし、第3回英検（1月実施）では、2級未取得者の受験を義務付けた。中学GS/高校GLでは、TOEFL Junior と TOEFL Primary も活用した。課外の「英検対策講座」（2級）を開講し、希望者が学年の枠組みを越えて受講した。インターナショナルスクール「聖ミカエル国際学校」との連携では、高校各学年生徒が学期毎に「SMIS 土曜学校スクールアシスタント」プログラムを実施し、インターナショナルスクール内の活動を経験した。

中学GS全学年で英語力レベルに分かれた聖ミカエル国際学校連携英語イメージョン授業

「Shoin Global Saturday English Class」を通年で行ったほか、GS中1では聖ミカエル国際学校「Summer Camp」（計10日間）も必修とした。なお、この英語研修にはGS以外の生徒も参加可とした。中学DS/GS全学年合同の英語コンテスト（3/9 英語スピーチ・レシテーションコンテスト）では、DS生徒は英語レシテーション（暗唱）とスピーチ、GS生徒は取組みを紹介するプレゼンテーションを行った。

海外姉妹校交流では、ニュージーランドの姉妹校 St.Peter's 校からの訪問団（4月、生徒21名、引率教員4名）を迎え、歓迎式典・授業・クラブ活動交流を行った。韓国の姉妹校信明高校・聖明女子中学校からの訪問団（1月、生徒20名、引率教員4名）も来校し、同じく交流し、ホームステイも行った。

海外研修プログラムとして夏休み中に松蔭より、短期語学研修（7/28～8/10 ニュージーランド St.Peter's 校）に20名、異文化体験研修（8/16～8/21 韓国信明高校・聖明女子中学校）へ16名（いずれの研修も中3～高2）の生徒を派遣した。

GS中3のフィリピン研修、GL高1のカナダ研修については上述のとおりである。コロナ禍で途絶えていた高校の単位認定留学制度を利用して、4名（カナダ3名、ブラジル1名）が1年間の海外留学中である。2学期には、海外留学・進学の特約業者3社による「海外大学進学・高校1年留学ガイダンス」を開催した。2024年度、新たに学期中の「ターム留学制度」を運用する予定である。

（キ）総合的な学習、探究学習の取組み

様々な分野での総合的な学習や探究学習、その導入プログラムを展開した。中学DSの「総合的な学習」では、DS中1は「マナー」をテーマとし、通常の一般生活におけるマナーにとどまらず、「心のマナー」として人との付き合い方から、いじめ・差別問題も含めて取り扱った。いじめ問題のドキュメンタリー視聴、映画「青い鳥」鑑賞、ダウン症親子サークルの代表の講演会を実施した。DS中2は「いのち」をテーマとし、1学期「生」、2学期「死」、3学期「小児がんの子供とその支援」を取り扱った。DS中3は、授業時間数が週2時間と増え、「平和」と「進路」の2つをテーマとした。「進路」に関しては、自分の適性や様々な学問、職業について調査し、その後、小論文作成の基礎教材を使用して、文章力を育成した。1月には外部の小論文模擬試験を受験した。また、高校3年生による「進路ライブ」講演会も行った。「平和」に関しては、1学期は、「シリア内戦」「第二次世界大戦」「原爆」などを扱い、被爆者による講演会を開催した。修学旅行（沖縄）を経て年度末には1年間の取り組みをもとに「平和への提言」を考えて文章にまとめ、発表した。

GS中学各学年は、「GL探究」授業で上述の「探究・教科横断テーマ」内容に沿い、探究学習をすすめた。GL高1では、「GL探究」授業（週3時間）、「AIC 連携授業」（週2時間）を中心に、「メタバースプロジェクト（仮想街づくり体験）」「福祉施設（重度身体障害者施設）インタ

ーンシップ体験」を実施した。「ソーシャルアントレプレナーシップ」教育の取り組みとしては、クラスを単位とした起業で、松蔭タータンをモチーフにした商品開発に取り組み、翌年度の文化祭で販売することを計画している。GS/GLの4学年は毎学期末に講堂や教室でプレゼンテーションを行った。

高1LS/AAは、週2時間の「言語探究」授業では「探究学習」と「進路」を柱とした。「探究学習」については、様々な社会問題についてのグループ協働学習及び個人活動を行い、課題設定、情報収集と調査、解決策、発表資料作成など探究学習のスキル習熟をはかった。環境問題を取り扱うプロジェクト型学習 Blue Earth Project では、希望者が須磨海岸での「ビーチクリーン」や街頭でなお「海洋プラスチックごみ削減」の啓発活動を行った。

高2は、前年度から始まった「言語探究」授業に引き続いて外部講師や相談室スクールカウンセラーによるアイデンティティ、セルフコンパッション、レジリエンスに関するワークショップを行った。また、クラスを解体してグループを編成した「社会につながるアクション」の取り組みでは、3学期の「奉仕活動の日」1日の活動を柱とし、その前後の期間にも子ども食堂、認定こども園など学外での活動を継続した（後述）。環境問題を取り扱うプロジェクト型学習 Blue Earth Project では、希望者が大阪万博記念公園でのイベントに参加し、「サステナブルファッションや衣料廃棄問題」に関する啓発活動を行った。また、東京新宿御苑での啓発イベントにも生徒5名が参加した。

高3では、進路が決定済の生徒による3学期の Blue Earth Project を行い、西宮ガーデンズで「ファッションロス」に関するブース、ミニステージでの寸劇を通して啓発活動に取り組んだ。

3学期の「奉仕活動の日”SHOIN School Campaign”」の取り組みは3年目となり、目的である、校外の社会とのつながりを考える生徒の自主活動としての側面は年々深まっている。サービスラーニングや社会への発信の機会として、各学年、クラス、グループごとに活動した。生徒たちは事前の準備作業を行い、2月17日（土）当日、次のような活動に取り組んだ。

DS 中1 学校周辺の清掃活動

DS 中2 小児がん患者支援のためのレモネードスタンド（校内、校外）

DS 中3 リサイクル品回収

GS 中1 ジェンダー平等啓発

GS 中2 献血啓発

GS 中3 小学校との連携授業紹介

LS/AA 高1 須磨海岸ビーチクリーン

GL 高1 金融教育への提言

高2 社会につながるアクション（教会活動支援、募金活動、子ども食堂支援など）

高3 有志による模擬店運営

(ク)進学対策・受験指導と高大連携

教員が担当する平日の補習、長期休暇中補習、上述の高1特進クラス対象特別補習「入試対策講座」のほか、外部講師が担当する校内予備校（現代文 高3）、大学進学対策補習「受験対策特別講座（英語、高2高3は通年。高1は夏期講座）」を開講した。また、年度初めのPTA/生徒学年集会（進路説明会）では、総合型選抜（AO入試）に関する説明会を実施するとともに、希望する生徒・保護者対象「総合型選抜（AO入試）ガイダンス」を初めて開催した。この

ガイダンスには生徒保護者 50 名が出席し、関心の高さを示した。3 学期には、外部講師による「受験対策特別講座（AO 入試）」を試験的に開講した。

理系・医療系進学を希望する生徒を支援するため、中学各学年と高 1 に「数学特進講座」を週 1 回ずつ放課後に開講した。また、各学年単位で次の講座を実施した。

高 2 化学・生物実験（時計反応、花火づくり、発酵や光合成色素分離、カエル解剖）

高 1 星空観察（校内合宿）

高 1 製薬会社見学ツアー（沢井製薬三田工場）

中 2 カエル解剖

中 1 化学実験（ワインのアルコール抽出）

「進路ライブ」は、生徒の進路意識を刺激し、意欲を喚起するためのプログラムである。進路決定後の高 3 生徒が下級生に進路決定や学習方法についてアドバイスした。

高大連携の取り組みでは、各大学へのキャンパスツアーや各大学教員による出張授業等を実施したほか、高大連携協定の締結などをすすめた。

4/12 関西大学 前田学長講演会（中 3・高校生）

4/24 大手前大学との「教育連携の覚書」調印

5/29 関西大学 社会学部関口学部長出張授業（中高希望者）

8/29 神戸松蔭女子学院大学 特別オープンキャンパス（高校各学年）

11/24 関西大学総合情報学部 林教授出張授業（中高希望者）

12/6 関西大学キャンパスツアー（高 1 高 2 希望者）

12/12 神戸薬科大 大山准教授出張授業（中高希望者）

3/7 梅花女子大キャンパスツアー（高 1 高 2 希望者）

3/9～10 立教大学キャンパスツアー（高 1 高 2 希望者）

また、進路指導中央会議を開催し、校長が座長となって生徒の進学・進路指導を学校全体で支援する態勢とした。過去の進路結果と在校中の成績推移、在校生の成績と進路希望を学年の枠組みを越えて共有し、受験指導に活用できるようにした。

自習室は高校、中学各 1 室があるが、コロナ禍による利用制限を解除した。また、自習室隣室に第 3 の自習室「松蔭スタディーカフェ（S-Café）」を設けた。

（ケ）いじめへの対応、ニーズがある生徒への「特別支援」

学校独自の「生活アンケート」を年間 2 回実施し、学級への適応感やいじめなどのトラブルの有無など、生徒状況の把握に努めた。アンケート結果は、生徒指導や生徒個人面談、保護者面談の資料となった。

生徒間のいじめ事案が判明した場合、聞き取り作業など調査を行うとともに、必要に応じてアンケート調査を実施し、事実関係の把握、生徒ケア（いじめ被害生徒）ケアと指導（いじめ加害生徒）、周辺生徒への指導により、いじめ被害者と保護者、学校、いじめ加害者と保護者間の 3 者の対話を重視しながら、丁寧に問題解決を図った。

特別なニーズがある生徒に対する「特別支援」については、特別支援委員会を運営し、個別の指導計画を策定したほか、個々の特性や状況についての情報を共有、分析し、学校として一致して対応、指導した。2023 年度の場合、定期考査の別室受験や試験問題用紙の拡大などの措置を行った。特別支援の専門家による「個別指導教室」では、ソーシャルスキルトレーニング

(SST)を実施した。認知訓練教材を使用する「特別支援教室(芦塚教室)」も並行して運営し、中学生、高校生が出席した。特別支援委員会の対象ではない生徒についても、出身小学校・中学校での指導歴を保護者同意のうえで情報を共有し、本校での指導の参考資料とした。2024年度より「合理的配慮」が義務化される。法の趣旨に則り、心身の障害や発達障害、特性ある生徒個々に対する適切な支援を引き続き継続する。

不登校生徒への支援については、高校「在宅学習単位認定制度」による特別教育課程が運用を開始して3年目となった。本制度に基づき2023年度3名の卒業を認定した。保健室、図書館を別室登校・学習場所とし、可能な限り授業出席を促した。中学段階の不登校傾向のある生徒についても、本人状況を観察し、学年団教員、保健室、相談室で連携し、生徒及び保護者支援を継続する。校内相談室への登校や校外施設での学習や活動についても、出席扱いとするなど、柔軟な対応を行った。

相談室には、公認心理師資格を持つ3名のスクールカウンセラーを配置し、生徒、保護者、教職員に対応した。また、児童精神科医師によるスーパービジョン「カウンセリングカンファレンス」を定期的に開催した。保護者のピアカウンセリングのプログラムとして「保護者おしゃべり会」を各学期に1回ずつ開催した。

「帰国生・国際生」への支援についても本格的に開始した。海外にルーツがある生徒や海外在住、現地校在籍などにより日本語の運用力が日本の中学高校各段階の平均レベルに到達していない生徒が入学、編入する事案に対応する必要性が生じている。日本語力が不十分な場合には、「別途学習プログラム」として、別室での国語学習指導を実施したほか、放課後の各教科担当者による個別指導、定期考査問題用紙への日本語ルビ記載、タブレットにより小テストプリント等の英語翻訳を可とする指導など措置した。また、学習評価についても中学段階では特別な扱いとして「評価なし」とするなどした。高校での学習評価については、大学進学の際の推薦席次の公平性の観点から、今後扱いを検討することとしている。

(コ)人権教育、性教育

人権教育では、「在日外国人に対する理解を深める」をテーマとし、在日韓国人ジャグラーによる研修会、講演会を開催した。

教職員人権教育研修会「ちゃんへん氏ジャグリングショーと講演」(10/17 体育館)

生徒人権教育講演会「ちゃんへん氏ジャグリングショーと講演」(11/10 体育館)

性教育関連では、高校2年生対象の講演会を1学期に実施したほか、中学各学年生徒対象の特別授業を3学期に実施した。

中1：神戸市思春期ヘルスケア専門職(助産師)デリバリー授業

井上理絵講師(神戸市看護大)

中2：思春期ピアカウンセリング授業

高田昌代講師(神戸市看護大)・学生

中3：神戸市思春期ヘルスケア 専門職(助産師)デリバリー授業

青木日和講師(神戸市助産師会)

高2：いのち語り隊による性教育講演会

永原郁子医師(マナ助産院院長・小さないのちのドア代表)

(サ)キリスト教主義教育

①全校礼拝・特別礼拝

宗教教育、キリスト教主義教育として、週一回の中学・高校それぞれの「朝の全校礼拝」その際の講話では、チャプレンや宗教部担当教員だけでなく、各学年の教員も担当した。有志教職員、生徒による「早朝礼拝」、毎週金曜日昼休みの「ヌーンサービス」はレオノラチャペルで行われた。「お誕生日礼拝」を月1回行い、誕生月の生徒、教職員に「誕生日カード」を配布し、図書館作成の「あなたへのお勧め図書紹介」も同封した。以下は2023年度実施の特別礼拝の記録である。

4月15日(土) 入学感謝礼拝(神戸聖ミカエル大聖堂)

説教 日本聖公会神戸教区 小林尚明主教

4月27日(木) イースター礼拝

説教 大阪女学院中学校・高等学校 宗教主任宮岡信行先生

6月16日(金) 1学期宗教週間 特別礼拝

説教 日本キリスト教団 千里ニュータウン教会能勢岳史牧師

11月11日(土) 逝去者記念礼拝(レオノラチャペル)

11月15日(水) 2学期宗教週間特別礼拝

説教 プール学院チャプレン 成岡宏晃司祭

12月20日(水) クリスマス燭火礼拝

説教 日本聖公会 前東北教区主教 吉田雅人主教

1月17日(水) 震災記念礼拝(講堂) 震災記念の祈り(レオノラチャペル)

2月24日(土) 卒業感謝礼拝(H3)(神戸聖ミカエル大聖堂)

②その他のキリスト教主義教育活動について

授産施設「にじ作業所」「パン工場なないろ」支援のために校内でのパン販売の機会を複数回持った。全校礼拝や行事の開閉会式での奏楽奉仕者をめざすオルガンレッスンを開講し、生徒6名が学校オルガニストから演奏指導を受けた。また、「チャペルニュース」の定期発行、書道部が作成した聖句掲示を教室や廊下に張り出した。以下、関連活動の記録である。

6月7日(水)・14日(水) にじ作業所パン販売

6月12日(月)～17日(土) 1学期宗教週間

6月12日(月)～17日(土) チャリティブックバザー(図書館)

6月15日(木) オルガンコンサート(講堂)

7月15日(土) にじ作業所パン販売(「オープンスクール」にて)

7月17日(月) 広島平和礼拝事前学習(神戸聖ミカエル教会)

8月5日(土)～6日(日) 広島平和礼拝

8月26日(土) にじ作業所パン販売(「オープンハイスクール」にて)

11月6日(月)～11日(土) 2学期宗教週間

11月6日(月)～11日(土) チャリティブックバザー(図書館)

11月8日(水)・22日(水) にじ作業所パン販売

11月8日(水)～24日(金) クラス講話(レオノラチャペル)

11月11日(土) 逝去者記念礼拝(レオノラチャペル)

11月 6日（月）・ 8日（水） クリスマスグッズ作り（レオノラチャペル）

12月 15日（金） ピースツリーのメッセージカード記入・セッティング

12月 16日（土） 小学生・中学生対象「クリスマスの集い」でのピースツリー・核廃絶署名活動・にじ作業所パン販売

1月 27日（土） にじ作業所パン販売

2月 14日（水） オルガンレッスン生 卒業演奏会

3月 11日（月） 震災記念碑めぐり

（シ）生徒会活動、課外活動、学外の個人活動

①生徒会活動

校門での朝の「あいさつ運動」を実施した。新入生（中学、高校）対象の各部部員による「クラブ紹介」のほか、「クラブ活動見学ツアー」を企画・実施した。生徒の意見や要望を聞く「目安箱」も設置した。生徒会役員選挙の立候補者立会演説会および生徒総会を講堂で行ったが、コロナ禍以来4年ぶりの開催となった。生徒会役員選挙は電子投票により実施した。各学期に中高合同のアセンブリー（生徒集会）を開催し、生徒顕彰等を行った。

②クラブ活動

活動中のクラブ活動は以下のとおり

○運動部（5部）

アーチェリー部、水泳部、ソフトテニス部、テニス部、バドミントン部

○文化部（14部）

E.S.S.部、演劇部、華道部、茶道部、食物部、書道部、箏曲部、ハンドベル部、BAND（軽音楽）部、BAND（フォークソング）部、美術部、放送部、マンガ研究部、モダンダンス部

○同好会（10会）

少林寺拳法、ソフトボール、卓球、バスケットボール、バレーボール、コーラス、写真、バイオリン・アンサンブル、バレエ研究、マンドリン

③クラブの特例措置について

クラブの存続、募集停止等の規定については、在籍部員数により同好会化や募集停止・廃部の手続きが定められているが、次のクラブについては特例措置として、規定の対象としないことを決定し、生徒総会でも承認された。部員が在籍しない場合は休部（同好会）として扱う。

学校運営上の特例とする部・同好会・・・ハンドベル、コーラス、放送

生徒募集対策（高校AAコース）の特例とする部・同好会・・・バレーボール

④クラブ活動、課外活動、学外の個人活動で全国大会（および同等の大会等）に出場

○アーチェリー部

・第42回全国高等学校アーチェリー選抜大会

○書道部

・第39回成田山全国競書大会

・第28回全日本高校大学生書道展

・第18回全日本小学生中学生書道紙上展

・第39回みなぎの書道展

○高 1G L コース（高 1G クラス）

- ・国際協力機構（JICA）中学生高校生エッセイコンテスト（前年度作品が受賞）

○中 3 G S

- ・「With The World 主催 オンライン世界合同プレゼンテーション」入賞

○空手・古武術

- ・第 7 回世界寛水流空手道 形 古武術選手権大会 古武術棒部門
- ・第 7 回世界寛水流空手道 形 古武術選手権大会 形部門

○ゴルフ

- ・PGM 世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会西日本決勝大会
- ・IMGA 世界ジュニアゴルフ選手権
- ・全国中学校ゴルフ選手権大会文部科学大臣杯大臣賞
- ・全国中学校ゴルフ選手権大会文部科学大臣杯連盟賞

○デザイン

- ・手帳の匠コンテスト 2023 表紙デザイン部門
- ・手帳の匠コンテスト 2023 週間デザイン部門

○バレエ

- ・第 36 回こうべ全国洋舞コンクール
- ・キーウバレエの至宝 エレーナ・ミハイロブナ・ポタボワ記念 第 12 回全国クラシック
- ・バレエコンクール in HIRAKATA
- ・ジャパンバレエコンペティション兵庫 2023
- ・第 8 回ヴィクトワールバレエコンペティション

○ピアノ

- ・第 13 回日本バッハコンクール全国大会

(ス)安全教育、防災教育

教職員は、年度当初に火災報知器の取り扱いに関する講習会を開催し、非常ベル作動の際の対応や防災監視盤の取り扱いの研修を行った。また、警報発令時、大災害発生時の教職員の対応についても確認した。校内の災害用備蓄品、災害ベンダーについても、教職員が適切に対応できるようにしている。5 月には教職員対象の応急処置・心肺蘇生法講習会を行った。

生徒は、全校避難訓練を各学期に実施し、火災発生、地震発生、不審者侵入など緊急時の避難経路と点呼確認の態勢を確認した。また、常時携行用の「大災害対応マニュアル」を配付し、家族とも災害発生時の対応を確認するよう指導した。学校ホームページの安否確認入力フォームについても周知した。なお、2024 年 1 月の能登半島地震発生を受け、市内で震度 5 弱以上を記録する地震が発生した場合、臨時休校とすることとしたほか、従来の大災害発生に対する教職員マニュアルの改定作業をすすめ、2024 年度より運用する予定である

歩行者の歩きスマホによる事故や自転車事故などの交通事故の多発が社会問題化している。全校生徒を対象に交通安全講習会を開催し注意喚起を行った。

(セ)学校 IT 化、ICT 教育推進

マルチメディア委員会は校内 ICT 環境整備、デバイスやアカウントの管理など情報機器の管理運営の主体として業務を行った。生徒一人一台のタブレット保有、生徒と保護者両方の

Classi アカウント、生徒のマイクロソフトアカウントにより、生徒・教員間の学習、連絡の ICT 化、保護者と学校間の連絡のデジタル化が実現している。また、様々な教育関連アプリによる学習の効率化、文書配布や欠席、遅刻連絡のデジタル化、成績・学籍管理のための校務システム、テストのデジタル採点方式の試験導入により、業務合理化は順次実現している。今後も学校 IT 化を推進するとともに、生徒のデジタルスキル教育、情報モラル教育についても併せて推し進める必要がある。なお、これまで冊子として全校生徒に配布していた「ハンドブック」「進路のてびき」についてもデジタル化する予定である。

(ソ) 中学・高校の入学生数および全校生徒数 (4/1 時点)、中学・高校卒業生数

2023 年度中学入学生	72 名	中学卒業生	66 名
高校入学生 (併設中学からの進学者を除く)	46 名	高校卒業生	97 名
中学・高校在籍生徒数	554 名 (中学生 215 名 高校生 339 名)		

(4) 入試・募集活動

(ア) 入試説明会実施状況

4 月 9 日 (日) 新聞社主催 私立中学受験フェス (グランフロント大阪)
 4 月 9 日 (日) 新聞社主催 進学相談会 in 明石 (グリーンヒルホテル明石)
 4 月 16 日 (土) 新聞社主催 兵庫県私立中学校・高等学校入試報告会 (神戸国際会館)
 4 月 20 日 (木) エデュケーショナルネットワーク 中学入試情報セミナー
 4 月 22 日 (土) 23 日 (日) 芦研説明会 (芦屋ルナホール)
 4 月 22 日 (土) GS・GL 説明会 (校内)
 5 月 11 日 (木) ~ 15 日 (月) 日能研海外説明会 (シンガポール・ジャカルタ)
 5 月 13 日 (土) 新聞社主催 兵庫県 私立中学・高校入試報告会 (明石商工会議所)
 5 月 14 日 (日) 新聞社主催 進学相談会 (フレンテ西宮)
 5 月 28 日 (日) 新聞社・塾共催 私立中高進学相談会 (梅田サウスホール)
 6 月 3 日 (土) Singa Life 海外オンライン説明会 (校内から)
 6 月 10 日 (土) 高校授業見学会 (校内)
 6 月 11 日 (日) 芦研模試会場、中学校説明会 (校内)
 6 月 24 日 (土) 中学授業見学会 (校内)
 7 月 3 日 (月) 海外子女教育財団 帰国生のための学校説明会 (オンライン)
 7 月 15 日 (土) オープンスクール (校内)
 7 月 16 日 (日) 兵庫県女子中高一貫校合同説明会 (神戸三宮東急 REI ホテル)
 7 月 23 日 (日) 新聞社主催 進学相談会 in 加古川 (加古川プラザホテル)
 7 月 23 日 (日) 出版社主催 私立小中高 個別進路相談会 (須磨パティオ)
 7 月 30 日 (日) 兵庫私学 小中高校説明会 西宮会場 (ホテルヒューイット甲子園)
 8 月 6 日 (日) 兵庫私学 小中高校説明会 姫路会場 (アクリエ姫路)
 8 月 19 日 (土) 20 日 (日) 兵庫私学小中高校説明会神戸会場 (神戸サンボーホール)
 8 月 26 日 (土) オープンハイスクール (校内)
 9 月 2 日 (土) 海外オンライン説明会 (校内から)
 9 月 3 日 (日) 新聞社主催 兵庫県私立中学高等学校展 (甲南大学 西宮キャンパス)
 9 月 9 日 (土) 第 1 回中学校説明会 (校内)

- 9月10日(日) 出版社主催 学校進路相談会(イオンモール神戸北)
- 9月16日(土) 第1回高校説明会(校内)
- 9月16日(土) 第1回課題図書プレゼン入試説明会(校内)
- 9月16日(土) 明光義塾 兵庫進学相談会(神戸国際展示場)
- 9月17日(日) 朋友ヴィッツ 私立中学・高校入試合同説明会(尼崎女性センター)
- 9月20日(水) 塾対象説明会(校内)
- 9月24日(日) 関西教育機構 私学フェスタ(グランフロント大阪)
- 9月30日(土) 新聞社主催「兵庫県私立中高 進学相談会」(神戸国際会館)
- 10月 1日(日) 阪神西宮説明会(西宮市民会館)
- 10月 1日(日) 出版社主催 学校進路相談会(イオンモール明石)
- 10月 4日(水) 神戸市私立高校入試合同説明会(神戸市総合教育センター)
- 10月 8日(日) 芦研模試会場、第2回 中学校説明会(校内)
- 10月 8日(日) 私立高等学校 合同個別相談会(伊丹スワンホール)
- 10月 9日(月祝) 明石説明会(ウィズ明石)
- 10月15日(日) 新聞社主催 進学相談会(西宮フレンテ)
- 10月22日(日) 三田説明会(三田市商工会館)
- 10月28日(土) 第3回中学校説明会(校内)
- 10月29日(日) 宝塚説明会(宝塚ソリオホール)
- 11月 3日(金祝) 西神南説明会(西神南セリオホール)
- 11月 4日(土) 第2回高校説明会(校内)
- 11月12日(日) プレテスト(校内)
- 11月25日(土) プレテスト個別アドバイス会(校内)
- 12月 2日(土) 第3回高校説明会(校内)
- 12月 2日(土) 第2回課題図書プレゼン入試説明会(校内)
- 12月 9日(土) 第1回英語面接練習会(校内)
- 12月10日(日) 第4回高校説明会(校内)
- 12月16日(土) クリスマスの集い
- 12月16日(土) 第2回英語面接練習会(校内)
- 12月16日(土) 課題図書プレゼン練習会(校内)
- 12月23日(土) 個別相談会(校内)
- 1月13日(土) 自己推薦GS入試・A方式入試・英語入試・課題図書プレゼン入試
- 1月14日(日) B方式入試
- 1月20日(土) 中学校 合格者登校日
- 2月10日(土) 高校入試
- 2月17日(土) 高校入学予定者登校日
- 3月27日(水) 神戸市東地区女子中高一貫校合同説明会
(神戸海星・甲南女子・親和・松蔭)(東灘区文化センター)

(イ)2024 年度 中学入試結果

	募集人員		志願者	受験者	合格者	入学者**
自己推薦 GS入試		*GS約 30	10	10	10	GS10
A方式入試	DS 約100		53	52	50	DS50
英語入試		*GS 約30	DS11 GS8	DS10 GS7	DS10 GS6	DS10 GS2
課題図書 プレゼン入試			10	10	10	DS10
B方式入試	DS約20		国語34 算数31	国語22 算数19	国語22 算数19	DS6
合計	約150		157	130	117	DS67 GS12

*GS 募集人員は、自己推薦 GS 入試、英語入試を合わせて約 30 名

**入学者予定者は、各入試方式での入学者数を記載しているため、重複を含む。

このため、各入試方式の入学者予定者数を合計しても合計の人数にはなりません。

(ウ)2024 年度 高校入試結果

入試方式	コース	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
専願	LS	約 50	17	17	17	17
	GL		1	1	1	1
	AA		19	19	19	19
併願	LS		4	4	4	0
	GL		1	1	1	0
合計			42	42	42	37

*LS 専願 9 名特進希望 6 名合格、 LS 併願 2 名特進希望 2 名合格

(5) 進路関係

(ア)高 3 の進路状況全般（過去 3 カ年推移）

	2024 年度入試	2023 年度入試	2021 年度入試
神戸松蔭女子学院大学（特薦）	17	22	40
外部大学	70	71	80
外部短大	2	0	4
専門学校・留学	4	4	12
その他	4	4	3
卒業生数	97	101	139

* 松蔭特薦専願は 17 名であった。多くの生徒が内部進学を積極的に選択した。また、併願合格者は 9 名で、併願からの進学者は 1 名となった。（前年度は合格 9 名、進学 1 名）

(イ)2024 年度入試での外部大学進学者数一覧

新型コロナウイルス感染拡大の影響がまだまだあるようで、前年度に続き慎重な出願が目立つ入試となった。難関私大ではやや難化した。逆に中堅以下は易化する傾向にある。公募推薦や一般選抜では早稲田大学、明治大学、関西学院大学、近畿大学、京都産業大学、摂南大学、追手門学院大学などさまざまな大学に合格者を出せたことは一定の成果であると考えられる。

2023 年度高 3 進学者数（学校別）

学校	人数	学校	人数
神戸松蔭女子学院大	17	京都光華女子大学	1
神戸女学院大学	9	京都産業大学	1
関西学院大学	7	神戸女子大学	1
甲南大学	6	神戸親和大学	1
立教大学	5	摂南大学	1
関西大学	4	宝塚医療大学	1
甲南女子大学	4	東京造形大学	1
神戸学院大学	4	東京農業大学	1
関西外国語大学	3	同志社女子大学	1
関西看護医療大学	3	姫路獨協大学	1
近畿大学	2	兵庫医科大学	1
追手門学院大学	1	明治学院大学	1
大阪音楽大学	1	早稲田大学	1
大阪学院大学	1	関西外国語大学短期大学部	1
大阪芸術大学	1	関西学院大学短期大学部	1
大阪産業大学	1	神戸看護専門学校	1
大阪樟蔭女子大学	1	神戸元町医療秘書専門学校	1
大阪成蹊大学	1	グラムール美容専門学校	1
関西医療大学	1	平成淡路看護専門学校	1

(6) 施設・設備関係

2023 年度は南館屋上の変電設備（キュービクル）更新工事を実施した。

(7) 中期計画（及び事業計画）の進捗・達成状況

2023 年度事業計画書には、中期計画（学校経営ビジョン）および年度事業計画として、教学マネジメント面では、中学ストリーム制の PDCA、高校 3 コース制の適切な運用や探究系授業の実践、進路指導の充実と併設大学および他大学との高大連携事業の拡充を挙げた。中学・高校の教育課程は順調に展開しており、それぞれ適切に運営されている。

経営・財務マネジメント面では、生徒募集対策、人材育成と教員採用、財務構造の見直しを課題とした。生徒募集では、インターナショナルスクール関西国際学園との教育連携を行うなど、中学 GS 教育内容が評価され一定数の入学希望者が生まれている。また、高校 AA コース設

置記念事業として「第1回京都バレエ プレコンクール・ガラ公演」(8/6 於講堂)を開催し、全国から出演・出場者を得た。4月よりエセルホール入口に同窓会室(千と勢会室)を設置し、エセルホールを学校・同窓会共用箇所としたことにより、卒業生に対する募集広報活動は一層充実しつつある。また、同窓会の協力により始まった特別奨学制度「千と勢スカラシップ」(2023年度より運用)は、高校AAコース募集に有用な制度の一つとなっている。

生徒募集が成功し、在籍生徒数が増加することは、現状の厳しい財務構造の改善に直結する。それを実現可能とする学校経営・運営の新しい枠組みづくりを検討しなければならない。

また、指導力がある教員の確保も喫緊の課題である。現職教員については、教員免許更新制度の廃止に合わせ、本校では教員研修履歴の記録を義務付けた。また、「生成AIの活用に関する校内研修」(2/7 オンライン実施)など最新の教育ツールの研修も行っている。問題は新任の教員採用である。公立学校教員志望者が減少しているが、私学教員志望者も同様の傾向にある。指導力がある教員の確保が特色教育の質を担保・向上させる。公立学校教員について取沙汰されている「教職調整額」と時間外勤務の問題も含め、教員志望者が意欲を持って学校勤務を継続するに足る賃金保障が求められる。この点は当然現職教員にとっても同様である。

以上

3. 大学

(1) 執行部関係

学 長	待 田 昌 二
副 学 長	坂 本 真佐哉
副 学 長	片 平 理 子
学長補佐(学生担当)	中 村 博 文
学長補佐(教務担当)	竹 中 康 之
学長補佐(入試担当)	長谷川 誠
図 書 館 長	田 中 ま き
宗 教 主 事	木 鎌 耕一郎
文 学 部 長	打 田 素 之
人間科学部長	徳 山 孝 子
教育学部長	谷 川 弘 治
事 務 局 長	上 野 智 子

(2) 教授会開催状況

教授会は専任講師以上の専任教員で構成し、文学部、人間科学部、教育学部の3学部合同で開催している。原則第1木曜日の開催としているが、審議事項や学事日程に応じて別日程の開催とすることもあり、年間の開催日程を学内に周知している。2023年度は11回開催し、次の事項を審議した。

- ①学生の入学、卒業及び課程の修了
- ②学位の授与
- ③入学試験、編入学試験の合否判定
- ④科目等履修生の受入及び単位認定
- ⑤単位認定（留学・語学研修・単位互換事業）
- ⑥学則等規程改正

(3) 教学マネジメント会議

教学マネジメント会議は、教学に関わる中長期計画に基づき、学部・大学院全体の教育課程の編成・実施について審議している。2023年度は5回の会議を開催し、2024年度及び2025年度学部・学科、研究科・専攻及び課程のカリキュラム、履修規程改正、履修登録単位数の上限設定、2024年度遠隔指定授業について審議を行った。また、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラムマップについての点検も行った。

(4) 教学関係委員会開催状況

学長が主宰する委員会として独立委員会を、教育行政部門が所管する委員会として専門委員会をおいている。2023年度の各委員会開催状況は次のとおり。

独立委員会	
教学委員会	47 回
入試総務委員会	23 回
国際交流委員会	7 回

自己点検・評価運営委員会	2 回
広報委員会	4 回
個人情報保護委員会	0 回
全学共通教育委員会	1 回
教職教育委員会	3 回
I R 室運営委員会	11 回
専門委員会	
学生部委員会	9 回
人事委員会	16 回
教務委員会	11 回
図書館運営委員会	15 回
学術研究委員会	6 回
公開講座運営委員会	0 回
キリスト教センター委員会	2 回
F D 委員会	7 回
ハラスメント防止対策委員会	7 回
環境対策委員会	0 回
ネットワーク委員会	0 回
研究倫理委員会	9 回

(5) 教学関係

(ア)教育課程（カリキュラム）

- ・ 2024 年度カリキュラム及び開講クラス数について、2025 年度カリキュラム（文科省への申請に必要なもの）について審議を行った。学科・センターより申請されたカリキュラム編成、受講者数の資料について、学修時間、学修実態、授業評価結果、学修成果、資格取得実績等の IR 情報に基づき検討を行ない、適切であることを確認した。
- ・ 文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けるため、全学共通科目の情報系列必修科目に「データサイエンス・AI リテラシーⅠ」及び「データサイエンス・AI リテラシーⅡ」（各 2 単位）新設した。
- ・ 英語学科及び都市生活学科の 2025 年度の学科名称変更に伴い、カリキュラムの改編について、科目の廃止及び新設を行った。
- ・ 「認定留学」制度新設のため、科目の廃止及び新設を行った。

(イ)ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

- ・ 教学マネジメント会議において、教育目標／ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに照らし、各教育課程のカリキュラムが編成されていることを確認した。
- ・ ディプロマ・ポリシーと科目の位置づけ（カリキュラムマップ）、シラバスに記載している到達目標との対応関係について、各学科及びセンターで点検を行った。

(ウ)教育への ICT の導入

- ・ 遠隔授業の技術の維持・進展をはかり、教育の改革・改善を推進するため ICT を取り入れた「遠隔指定授業」を開設した。
- ・ 2022 年度入学生より BYOD (Bring Your Own Device) へ移行したため、「BYOD 対象科目」

を増設した。

(エ)卒業時アンケート

大学4年間の教育課程を通して、学生の学修成果、大学教育の教育成果を測るために、卒業生に対して「卒業時アンケート」を実施した。2022年度よりWEB回答に変更して2023年度回収率は約70%であった。

(オ)卒業者数

2023(令和5)年9月8日に、9月卒業の認定会議を開催し、文学部3名(英語学科2名、日本語日本文化学科1名)と人間科学部5名(心理学科3名、都市生活学科1名、ファッション・ハウジングデザイン学科1名)の計8名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

2024(令和6)年2月29日に卒業認定会議を開催し、文学部2学科158名、人間科学部6学科257名、教育学部1学科104名の計519名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

(カ)標準修業年限で卒業した学生の割合等

2020年度入学生の修業年限(4年)での卒業者数、卒業率、留年者数、中途退学者数等は次表のとおりである。

学部	入学者数 (2020年)	修業年限内 卒業者数	卒業率	留年 者数	留年率	退学者数	退学率
文学部	191人	152人	79.6%	19人	9.9%	20人	10.5%
人間科学部	294人	247人	84.0%	22人	7.5%	25人	8.5%
教育学部	108人	100人	92.6%	3人	2.8%	5人	4.6%
大学計	593人	499人	84.1%	44人	7.4%	50人	8.4%

(6) 大学院教育

大学基準協会による認証評価結果にて、文学研究科の収容定員に対する在籍学生数比率が低いことが改善課題として指摘されたことを受けて、英語学専攻を募集停止することとなった。

教育の充実に努め、教育研究の進展と人材育成の進展を目指し、研究倫理教育と研究不正防止に取り組んだ。1月15日～1月26日に研究倫理講習会を動画配信により開催し、本学の研究倫理審査の意図を指導教員及び大学院生に伝えた。

大学院のFDについて、FD委員会から大学院委員会の関連部会として、大学院FD部会を4回開催し、授業アンケート及び自己点検評価などを実施した。

大学院委員会は、学長、研究科長、副学長、学長補佐(学生担当)、学長補佐(教務担当)、学長補佐(入試担当)および大学院科目担当の専任教員で構成し、定例として月1回開催としている。2023年度は11回開催し、次の事項を審議した。

- ①2024年度教育課程に関する事項
- ②2023年度修了認定、学位審査に関する事項
- ③大学院入試に関する事項
- ④予算の編成等に関する事項
- ⑤大学院FD活動に関する事項
- ⑥学則等規程改正

2024（令和6）年3月7日に学位授与判定の会議を開催し、修士課程英語学専攻1名、国語国文学専攻3名、心理学専攻臨床心理学コース6名の最終試験を合格とし、修士（英語学）1名、修士（国語国文学）3名、修士（心理学）6名の学位授与を承認した。

(7) 学生生活関係

(ア) 課外活動

クラブ・同好会一覧

【運動部（7）】

ソフトテニス部、テニス部、卓球部、なぎなた部、ラクロス部、アーチェリー部、剣道部

【文化部（7）】

茶道部、書道部、箏曲部、美術・漫画研究会、文藝部、演劇部、放送部

【同好会（2）】

写真同好会、軽音同好会

2023年度におけるクラブ活動の主な成績は次のとおりである。

【ソフトテニス部】

関西学生ソフトテニスシングルス選手権	シングルス	優勝
		準優勝
		3位
		3位
		ベスト8
		ベスト8
		ベスト16
関西学生ソフトテニス春季リーグ戦	団体（1部）	優勝（4勝1敗）
関西学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス	3位
		3位
		ベスト8
		ベスト16
全日本ミックスダブルスソフトテニス選手権	ダブルス	優勝
仁川コリアカップソフトテニス大会	ダブルス	3位
	団体	優勝
西日本ソフトテニス選手権大会	ダブルス	ベスト16
		ベスト16
西日本学生ソフトテニス選手権大会	団体	3位
	シングルス	優勝
		準優勝
		ベスト8
		ベスト8
		ベスト16

文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会	団体	準優勝
三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス	3 位
全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会	シングルス	ベスト 32
		ベスト 32
		ベスト 32
関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦	団体	優勝（4 勝 1 敗）
燃ゆる感動かごしま国体（特別国民体育大会）	団体	6 位
		7 位
井ノ口杯全国ソフトテニス大会	ダブルス	3 位
関西学生選抜インドアソフトテニス選手権大会	ダブルス	優勝
関西学生ソフトテニス新人大会	ダブルス	3 位
全日本学生選抜インドア選手権大会	ダブルス	3 位
ソフトテニスジュニアジャパンカップ(競技者育成プログラム step 4)	ダブルス	ベスト 8

【テニス部】

関西学生チャレンジテニストーナメント	シングルス	ベスト 3 2
	ダブルス	ベスト 1 6

【なぎなた部】

関西学生なぎなた選手権大会	団体	優勝
	個人・段外の部	優勝
	個人・初段の部	2 位
関西学生なぎなた新人戦大会	リズムなぎなた	優秀賞（1 位）
関西学生なぎなた選手権大会	演技・有段の部	2 位
	演技・有段の部	3 位
	団体	優勝
	個人・段外の部	優勝
	個人・二・三段の部	2 位
	個人・二・三段の部	3 位
全日本学生なぎなた選手権大会	団体	優勝
関西学生なぎなた新人戦大会	リズムなぎなた	優良賞（2 位）
	試合競技 段外の部	優勝
	試合競技 有段の部	3 位
西日本学生なぎなた選手権大会	試合競技 段外の部	優勝
	試合競技 有段の部	3 位

【卓球部】

関西学生新人戦大会	団体	優勝
	個人	ベスト 8
		ベスト 16
関西学生卓球春季リーグ	団体	3 位（5 勝 2 敗）
関西学生卓球選手権大会	ダブルス	優勝
	個人	ベスト 4
		ベスト 8
		ベスト 4
		ベスト 4
		ベスト 8
		ベスト 16
		ベスト 16
全日本大学総合卓球選手権・大体の部	団体	準優勝
関西学生秋季リーグ	団体	優勝（7 勝 0 敗）
全日本総合卓球選手権大会	ダブルス	ベスト 4
	個人	ベスト 8
オール西日本大学卓球選手権大会	個人	ベスト 4
		ベスト 8
		ベスト 8
宝塚オープン	団体	優勝
		準優勝
	個人	優勝
		準優勝
		ベスト 4
		ベスト 8
兵庫県選手権卓球大会	個人	優勝
		準優勝
		ベスト 4
	ダブルス	優勝
		準優勝
		ベスト 4
ひろしまオープン国際卓球選手権	団体	ベスト 4

【書道部】

全日本高校・大学生書道展	個人	大賞
--------------	----	----

(イ) 学生生活

① 学内奨学金について

2023 年度の学内奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数	奨学金名	人数
・夢・未来サポート特待生奨学金 50	4	・松蔭高校生特別推薦選考入学者奨学金	8
・夢・未来サポートチャレンジ 50	1	・姉妹等奨学金	10
・夢・未来サポート特待生奨学金 100	3	・松蔭ファミリー入学者奨学金	1
・夢・未来サポートチャレンジ 100	1	・社会人特別編入学生奨学金	4
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 2 年目継続	3	・外国人留学生奨学金	1
・夢・未来サポートチャレンジ 50 2 年目継続	3	・大学院	3
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 3 年目継続	5	・指定校特待生制度	98
・夢・未来サポートチャレンジ 50 3 年目継続	3	・高大連携協定校奨学金	5
・夢・未来サポート特待生奨学金 100 3 年目継続	1	・総合型選抜奨学金	28
・夢・未来サポート特待生奨学金 50 4 目継続	3	・セメスター、中国語セメスター、韓国語セメスター留学奨学金	11
・夢・未来サポートチャレンジ 50 4 目継続	1	・1 年留学奨学金	1
・推薦選考スポーツ優秀者奨学金	27		

② 学外奨学金について

A. 学外貸与奨学金について

2023 年度の学外貸与奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

大学

奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	275
日本学生支援機構 第二種	351
その他 (5 件)	6

大学院

奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	0
日本学生支援機構 第二種	0

B. 学外給付奨学金について

2023 年度の学外給付奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数
日本学生支援機構 (修学支援新制度)	197
その他 (5 件)	6

(ウ) 大学祭 (松蔭祭)

2023 年度は 11 月 18 日 (土) と 19 日 (日) に実施した。テーマは、昨年よりレベルアップした松蔭祭を皆様に届けたいという想いを込めて「Level up」とした。

〔内容〕

模擬店：学生 5 団体、教職員 2 団体、学外 4 団体、学友会企画展示：学生 1 3 団体

教職員 3 団体、学外 4 団体

野外ステージ：学内 3 団体、学外 1 団体、学友会企画、よしもとお笑いライブ

ファッション・ハウジングデザイン学科によるファッションショー

(11/18 テーマ：RE：BIRTH)

タレントスペシャルトークショー (11/19)

(エ)ハラスメント対策

1999年にセクシャル・ハラスメント防止対策のためのガイドラインを定めたが、その後パワーハラスメント、アカデミックハラスメントなど幅広くハラスメント全般に対して相談体制や調査委員会などを整備し、学生が安心して教育を受けることができるように、また教職員が安心して業務に専念できるように制度を整えている。今年度も「ハラスメントをおこさないために」と題したパンフレットを学生および教職員に配布した。

(オ)学生支援室

学生支援室では、身体障害、発達障害、精神障害、慢性疾患あるいは心理的ニーズを有する、学生の修学支援や不登校学生の支援・相談について対応している。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ支援員が在室し、2023年度は128名の障害や病気のある学生を支援した。2023年度は、「学生支援室規程」(2024年1月23日)を改訂し、さらに「短期的な治療が困難な病気等のある学生に対する配慮願」に関する内規(2024年1月23日)を制定した。これらによって、本学の障害や病気のある学生支援の組織的な体制整備を強化した。また2023年度も、相談・居場所・交流の拠点である「学生支援サロン」(2022年5月開設)を継続的に運営して、学生の居場所の確保と学生支援の充実を図り、のべ687名が利用している。

(カ)学生相談室

学生相談室には、公認心理師および臨床心理士の資格をもつカウンセラーが常駐し、学生の相談に応じている。また学生だけではなく、学生の家族や教職員からの、学生についての相談にも対応している。その他、新入生を対象とした精神的健康調査(UPI)を実施し、その結果からハイリスクと考えられる学生に対しては、手紙と面接にてフォローアップを行なっている。また、広生相談室には、公認心理師および臨床心理士の資格をもつカウンセラーが常駐し、学生の相談に応じている。また学生だけではなく、学生の家族や教職員からの、学生についての相談にも対応している。その他、新入生を対象とした精神的健康調査(UPI)を実施し、その結果からハイ報活動の一つとしてニューズレターを発行している。

2023年度学生相談室利用実績は以下の通りである。

相談件数(対面面接・電話面接)

2023年度の延べ相談件数は987件、相談者実人数123名(学生119名、教員0名、学生の家族4名)。2022年度は、のべ1412件、相談者実人数141名であり、相談件数、利用者実人数ともに減少した。理由として、対面授業が増加し、電話相談、UPIを例年通り入学直後に実施し、来室を促す機会は得られたが、学生数の減少傾向にあるためと考えられる。

学生相談室実施のグループワーク

コロナ禍以前には、学生相談室では下記の3種類のグループワークを実施していたが、コロナ禍以降の2020年度ならびに2021年度はいずれも休止としていた。2022年度後期より、「ハロークラブ」のみを再開した。2023年度は、昨年度に引き続き「ハロークラブ」を実施、「ほっこりカフェ」を再開した。

- ・ハロークラブ(毎月1回昼休みに、ものづくり活動等を通じて参加者間の交流をはかる):2023年度の参加者は延べ23名であった(6月6名、7月3名、10月3名、12月6名、1月5名)。7月に「ペーパークイリング」10月に「ハロウィンオーナメント作り」、12月に「クリスマスフラワーアレンジメント」、6月・1月に「アロマスプレー作り」を実施した。なお、2022年度の参加者は延べ21名であった(10月9名、11月7名、12月5名、1月0名)。
- ・ほっこりカフェ(年2回昼休みに開催。新入生・過年度・復学・編入学の学生を対象とし、茶話

会を通じて参加者間の交流をはかる)：2023 年度の参加者は延べ 5 名であった(10 月 3 名、11 月 2 名)。10 月は復学生・休学経験学生、過年度生、編入生を対象に実施した。11 月は学生相談室・学生支援室を利用したことがある 1 回生を対象に実施した。なお、2022 年度は休止であった。

- ・ランチクラブ(毎月 2 回昼休みに、面談室を開放し、自由に昼食をとってもらう会)：2023 年度は引き続き休止した。

(キ)保健室

2023 年度の対応者数は授業が対面授業へ完全移行したこと、保健室運営についての業務形態が変更されたこともあり昨年と比較し 3,000 人以減少した。(対応者総数：延べ人数：1,618 人)

対応内容としては健康相談、メンタルヘルス関連の相談もあり、学生支援室、学生相談室と連携を取り対応した。

- ①健康診断：昨年と同様の感染対策を取り予定通り実施。

実施日：3/24(金)、3/25(土)、4/7(金)

受診者数：総受診者数 1,591 名（未受診者 15 名：うち 5 人が休学者）

受診率 99.1%

※大学内での健康診断に因る新型コロナウイルス感染症の発症は無かった。

※健康診断未受診の学生については、電話連絡・ポータルでのメッセージなどで継続的に健康診断受診の依頼を行った。また必要時各部門と連携をとりながら健康診断受診を促した。

- ②健康診断内科診察時全学生の健康チェック

- ③入学前健康チェック

2023 年度入学生入学前面談 19 名

- ④学外実習参加前健康チェック(2,321 名)

学生支援室と連携を取り、各担当部署と健康情報の共有を行った。また必要な学生とは面談を行った。

- ⑤寮へ訪問し寮生の健康相談と健康管理指導（28 名）

- ⑥学生支援室と連携・随時「配慮願い申請者」への面談・就学困難学生への支援

- ⑦体組成計を利用した健康指導(教職員向け)：9 月・3 月に実施

- ⑧学外実習に参加する子ども発達学科、食物栄養学科への保健指導（新型コロナウイルス感染症のため中止）

- ⑨その他

＝感染症の件について＝

＊健康診断時に麻疹・風疹の予防接種が行えていない学生へは予防接種の必要性について推奨を行う。

＊新型コロナウイルス感染症予防対策実施(5 月 3 日より 5 類へ移行したことを受け一般的な感染予防対策へと対策内容を切り替える)

(ク)学生寮

学生寮入寮者は 2022 年度迄 20 数名であったが、2021 年度より減少し 2022 年度は 6 名にまで落ち込んだ。この為、対策として温水洗浄便座設置、調理コンロ配付、無料 Wifi 環境整備、在寮期間を 4 年間にするなどの改善を行ったところ、新規入寮者が 19 名に伸び一定の効果があつた。

(ケ)松蔭 CP（チャレンジプログラム）について

コロナ以前は一定の成果をあげた松蔭 GP であるが、その後松蔭 CP として学生主体で行うことが決定していたが、コロナが発生し実施できないまま現在に至っている。2023 年度も学生委員会で検

討を重ねてきたが、授業に直結した学科内活動および学外での産学連携、社会貢献活動などが活発になるにつれて、学生、教職員に余裕がなくなってきたとの意見があり、今年度も松蔭 CP の実施には至っていない。

(コ)キャンパスにおける安心・安全対策

通学バス、タクシーによる登校時の安全対策として、警備員による正門付近の交通整理作業を行っている。この他、学内巡回警備をはじめ各所に防犯カメラを設置し、学内の防犯体制を敷き学生の安全・安心に配慮した。

(サ)教育後援会について

教育後援会は、学生・保証人（父母等）・大学の三者間の連携を深めることでより一層の学生生活の充実を図り、家庭と大学が一体となって学生の成長を支援していこうという主旨で設立され 15 年目となる。役員相互の交流を図りながら円滑な運営が行われるよう支援した。

実施した総会等主な行事は以下の通りである。

- ・総会 2023 年 5 月 27 日(土) 開催
- ・教育懇談会 2023 年 10 月 21 日(土) 開催
- ・大学執行部との懇談会 2024 年 2 月 17 日(土) 開催

- ・第 1 回 幹事会・役員会 2023 年 7 月 1 日(土) 開催
- 第 2 回 幹事会・役員会 2023 年 9 月 30 日(土) 開催
- 第 3 回 幹事会 2023 年 12 月 16 日(土) 開催
- 第 3 回 役員会 2024 年 2 月 17 日(土) 開催

(8) 国際交流関係

(ア)語学研修・海外インターンシップについて（全学科全学年対象）

- ①夏期語学研修徳成女子大学校（韓国）：9 名
- ②夏期語学研修（フランス）：最少催行人数に達しなかったため、実施せず。
- ③夏期海外インターンシップ（カナダ）：最少催行人数に達しなかったため、実施せず。
- ④春期語学研修アデレード大学（オーストラリア）：9 名
- ⑤春期海外インターンシップ（台湾）：6 名
- ⑥春期海外インターンシップ（ハワイ）：9 名

(イ)セメスター留学について（英語学科 2 年生後期実施）

- ①アデレード大学（オーストラリア）：5 名
- ②ヨーク大学（カナダ）：4 名

(ウ)学科別海外研修について

- ①日本語日本文化学科（海外日本語教育実習）
派遣先：スアンスナンター・ラチャパット大学（タイ）7 名
- ②海外日本語インターン
派遣先：スアンスナンター・ラチャパット大学（タイ）3 名
派遣先：ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（ベトナム）2 名
- ③教育学科（海外教育実習）
派遣先：アデレード大学（オーストラリア）22 名

(エ) 海外日本語教育助手について

- ① アデレード大学（オーストラリア）：1名（英語学科 2022 年度卒業）

派遣期間：2023 年 4 月～2023 年 12 月

- ② 北京外国語大学（中国）：1名（英語学科 2022 年度卒業）

派遣期間 2023 年 9 月～2024 年 6 月

- ③ 閩江学院（中国）：1名（日本語日本文化学科 2022 年度卒業）

派遣期間 2023 年 9 月～2024 年 6 月

- ④ ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（ベトナム）：1名
（日本語日本文化学科 2022 年度卒業）

派遣期間 2023 年 9 月～2024 年 6 月

(オ) 受け入れ留学生

- ① 私費留学生 2 名：教育学科 2 年生 1 名、英語学科 2 年生 1 名

- ② 交換留学生 4 名：北京外国語大学（中国）1 名、閩江学院（中国）2 名
ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（ベトナム）1 名

- ③ 短期受入れプログラム 16 名：閩江学院（中国）3 名、徳成女子大学校（韓国）4 名、
ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（ベトナム）3 名、ダルマ・プルサダ大学（インドネシア）2 名、スアンスンナンター・ラチャパット大学（タイ）4 名

(9) キャリアサポートセンター関係

(ア) 学生の就職支援

2023 年度は就職支援行事を対面中心に実施し、一部オンラインで実施した。

【対面実施】

就職オリエンテーション、就職ガイダンス、各種講座（グループ面接講座・グループディスカッション講座・筆記試験対策講座・エアライン講座）、内定者懇談会、

Brush UP セミナー（自己 PR 作成、学チカ作成）、Uターン就職セミナー、キャリアカウンセリング、何でも相談会

【オンライン実施】

グループ面接講座、学内企業説明会、キャリアカウンセリング

(イ) 就職状況（2024 年 3 月 31 日現在）

求職者数	就職者数	就職率
452人	448人	99.1%

(ウ)主な就職先

㈱日本エスコン	パナソニックホームズ不動産㈱	近鉄不動産㈱
㈱神戸製鋼所	㈱ワールド	パナソニックハウジングソリューションズ㈱
オフテクスホールディングス㈱	㈱NTTデータ関西	㈱JR西日本ITソリューションズ
ダイワボウ情報システム㈱	ANA大阪空港㈱	ANA関西空港㈱
㈱JALグランドサービス	㈱JALスカイ大阪	㈱Kスカイ
㈱ジェイエア	㈱阪神百貨店	㈱ハンズ
㈱ビショップ	㈱ニトリ	㈱神戸トヨペット
尼崎信用金庫	日本生命保険相互会社	明治安田生命保険相互会社
野村證券㈱	兵庫県農業共済組合連合会	みなと銀行
TC神鋼不動産㈱	関西不動産販売㈱	関電コミュニティ㈱
セキスイハウス不動産関西㈱	三井住友トラスト不動産㈱	エームサービス㈱
㈱ジェイアール西日本フードサービスネット	㈱ポートピアホテル	㈱星野リゾート・マネジメント
リゾートトラスト㈱	㈱新神戸ホールディング	SONPOケア㈱
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団	日本赤十字社	大阪市教育委員会
岡山市教育委員会	神戸市教育委員会	ヒューマンアカデミー㈱
㈱JTB	㈱スタジオアリス	㈱日本旅行
クラブツーリズム㈱	日本年金機構	日本郵便㈱
三井住友トラスト・ビジネスサービス㈱	㈱JTBビジネストラベルソリューションズ	㈱カトープレジャーグループ
㈱パソナグループ	㈱日立システムズフィールドサービス	生活協同組合コープこうべ
パーソルテンブスタッフ㈱	兵庫県警察	三木市役所

(10) 入試関係

(ア)本学の入試制度

- ①学校推薦型選抜（指定校入試）
- ②松蔭高校生特別推薦選考
- ③スポーツ優秀者推薦選考（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ④総合型選抜
- ⑤社会人特別入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）
- ⑥帰国子女特別入学試験
- ⑦海外指定校特別推薦入学
- ⑧外国人留学生特別入学試験
- ⑨学校推薦型選抜前期日程
- ⑩学校推薦型選抜後期日程
- ⑪一般選抜前期A日程
- ⑫一般選抜前期B日程
- ⑬一般選抜後期日程
- ⑭大学入学共通テスト利用入試（前期日程・中期日程・後期日程）

上記の入試制度により募集を行った結果、次のとおりの入学者数となり、大学は入学定員 460 名に対して入学者 186 名、定員充足率 40.4%であった。

また、すべての入学試験要項には、アドミッション・ポリシーを記載し、本学の学部・学科が求める入学生の資質を明確にしている。

2024 年度入学者数

学部・学科・専修			入学定員	入学者数	充足率
文学部	英語学科	英語プロフェッショナル専修	20	4	20.0%
		グローバルコミュニケーション専修	30	14	46.7%
	日本語日本文化学科		60	22	36.7%
	学 部 計		110	40	36.4%
人間科学部	心理学科		70	28	40.0%
	都市生活学科		100	28	28.0%
	食物栄養学科		60	26	43.3%
	ファッション・ハウジングデザイン学科		60	40	66.7%
	学 部 計		290	122	42.1%
教育学部	教育学科	幼児教育専修	40	20	50.0%
		学校教育専修	20	4	20.0%
	学 部 計		60	24	40.0%
合 計			460	186	40.4%

(イ)広報関係

①出版物の作成

大学案内、入試ガイド、クイックガイド、受験生向け広報誌「Plus S」（年 2 回発行）、Welcome 号、トピックスリーフレット、入試問題集等の作成

②公式サイトの更新

公式ホームページの情報更新等メンテナンス

③受験生向けサイトの充実

アドミッション・ポリシーをはじめ大学や近隣情報など受験生の関心の高い情報を随時更新、LINE 配信

④会場説明会

関西、北陸、中・四国・沖縄などで開催される説明会は、33 回実施。

⑤高校内説明会

主に、兵庫、大阪をはじめ、関西地区高校内で開催される相談会・進学説明会は、140 回の実施となった。

松蔭高等学校内での学科毎の説明会では、松蔭高校出身在学生と学科教員が対面形式で実施。

⑥オープンキャンパス等の実施

新型コロナウイルス感染症が第 5 類となり、6 月、7 月、8 月、11 月、3 月に 6 回実施。ランチの提供を再開し、キッチンカーや学内カフェを設置した。

⑦DM の作成、発送

オープンキャンパス、会場説明会の案内用 DM、チラシの作成及び発送

媒体紙の作成（新聞、雑誌）

業者企画の進学雑誌の作成、編集、校正

⑧高校訪問専従者による高校訪問と専任職員による高校訪問

高校訪問専従者による兵庫県と大阪府のほぼ全域と、岡山県、広島県と徳島県、鳥取県、島根県の一部、沖縄県；約 716 校への定期的な高校訪問ならびに高校訪問資料の作成

⑨交通広告の作成

駅・バス停の看板の作成及び意匠変更

車内ポスターの作成

⑩その他 WEB 関連の作成

業者企画の WEB サイト上の本学情報の作成及び変更

⑪高校教員対象の説明会の実施

本学で開催。対面式と Zoom ウェビナー形式で開催。

⑫キャンパスグッズの作成

⑬学生広報スタッフ研修会の実施

⑭その他

その他各種団体からの広告要望への対応

各種団体からの取材要望への対応

(ウ) アドミッション・ポリシー

学生募集については、本学の学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき策定した入学試験制度により選考し、入学者を決定している。特に、総合型選抜の入学試験においては、志望学科のアドミッション・ポリシーと大学での学びの目標に関する内容を中心に口頭試問を行っている。

(11) 施設・設備関係

①4 号館 1 階学生ホールを改修した。

②1 号館 4～6 階男女トイレを改修した。

③1 号館 6 階共同研究室を個人研究室に改修した。

④4 号館全館の空調個別化、及び更新工事を実施した。

⑤4 号館全室の照明を LED 照明器具に更新した。

⑥9 号館図書館事務室系統の空調設備を更新した。

⑦4 号館吹き抜け部、外壁タイルの改修を実施した。

(12) 情報インフラ整備関係

①証明書自動発行機（2 台）および発行機用サーバの入れ替えを行った。

②証明書発行機用パソコン 2 台およびプリンタ 1 台の入れ替えを行った。

③図書館システムの更新およびハードウェアの入れ替えを行った。

④事務部門ノート PC 4 台、プリンタ 1 台の新規導入を行った。

⑤ネットワーク用防犯カメラ 1 台の追加を行った。

⑥総務課コピー機の入替えおよび総合文芸学科共同研究室のコピー機の撤去を行った。

(13) キリスト教センター関係

(ア) ヌーンサービス：授業期間中の月曜日・火曜日

・誕生日感謝礼拝 6 回

4 月 27 日、6 月 29 日、7 月 20 日、10 月 12 日、11 月 16 日、1 月 18 日

(イ)特別礼拝

- ・入学感謝礼拝 4 月 4 日
- ・イースター礼拝 5 月 18 日
- ・2023 年度日本聖公会関係学校六校交歓会 5 月 20 日
- ・教育後援会総会開会礼拝 5 月 27 日
- ・ペンテコステ礼拝 6 月 1 日
- ・日本語日本文化研修留学生歓迎礼拝 7 月 6 日
- ・セメスター留学壮行礼拝 8 月 3 日
- ・平和の折り鶴奉獻（広島平和礼拝 2023）8 月 5 日～ 6 日
- ・学院逝去者記念礼拝 11 月 9 日
- ・松蔭祭のためのお祈り 11 月 14 日
- ・ホームカミングデー開会礼拝 11 月 18 日
- ・クリスマス礼拝 12 月 8 日
- ・松蔭女子学院新年礼拝 1 月 5 日
- ・新年祝福礼拝 1 月 11 日
- ・阪神淡路大震災記念礼拝 1 月 16 日
- ・第 38 回管理栄養士国家試験を受験する学生のためのお祈り 2 月 16 日

(ウ)式典

- ・入学式 4 月 1 日
- ・9 月学位記授与式 9 月 20 日
- ・学位記授与式 3 月 20 日

(エ)募金活動

2023 年度 合計 ￥1,081,846

- ・クリスマス礼拝での会場献金および学内教職員献金 ￥100,595
- ・学生ボランティアカフェ年間売上額（1 回） ￥8,000
- ・チャペルコンサート献金、オルガン奉獻 40 周年記念演奏会チケット売り上げ ￥973,251

(オ)ボランティア活動

- ・被災地視察および献金お届け（倉敷） 3 月 6 日～7 日

(カ)結婚式：2 組

(キ)公開行事・イベント

- ・バッハ・コレギウム・ジャパン神戸松蔭チャペルコンサート 4 回
4 月 29 日、7 月 17 日、11 月 26 日、2 月 3 日
- ・オルガン奉獻 40 周年記念コンサート 11 月 3 日
- ・クリスマスツリー点灯式 11 月 30 日

(ク)会場提供：2 回

- ・松蔭中高コーラス部定期演奏会 6 月 18 日
- ・松蔭中高バイオリン＆マンドリン定期演奏会 12 月 23 日

(14) 図書館関係

(ア)図書館

〈所 蔵 数〉2024 年 3 月末現在	(合計)	(和書)	(洋書)
蔵 書 冊 数 (備 品)	421,990 冊	312,697 冊	109,293 冊
雑 誌 種 類 数	3,563 種	2,727 種	836 種
A V 資 料	12,794 点		

〈2023(令和 5)年度 受入数〉	(合計)	(和書)	(洋書)
図 書	1,982 冊	1,957 冊	25 冊
雑 誌	706 種	634 種	72 種
A V 資 料	23 点		
消 耗 図 書	174 冊		

<2023(令和 5)年度 利用統計>	(合計)	(学生)	(教職員他)
入 館 者 数	12,695 人	10,668 人	2,027 人
図書貸出数(A V 資料含む)	10,733 点	7,982 点	2,751 点
BYOD ノートパソコン貸出台数	216 台	202 台	14 台
BYOD バッテリー等貸出台数	15 台	15 台	0 台

<2023(令和 5)年度 遠隔サービス利用状況>	(対応数)
学外アクセス用データベース ID 発行	238 件

開館日数 273 日

相互利用 (他大学との協力)

複写依頼	複写受付	図書借用	図書貸出	閲覧依頼	閲覧受付
85	250	15	41	0	6

オリエンテーション・ガイダンス

- ・「新入生クラス別オリエンテーション」各学科・グループに分け、1 年生に合計 15 回、216 名に対して実施
- ・2 年生以上の学生対象に論文作成及び卒業研究のためのガイダンスを 11 回 90 名に対して実施

除籍本の有効活用

- ・「図書館古本市場」 2 回実施 再利用資料数：546 点
- ・公益財団法人 日本科学協会の「日中未来共創プロジェクト」を通じ中国の大学に 122 冊寄贈

その他

- ・テーマを決めて図書を展示
- ・テーマを決めてオススメ本紹介
- ・新着図書紹介

- ・「わたしの『推し作家』大賞」を開催
- ・授業の参考資料「シラバス図書リスト」「データベースリスト」「オンラインブックリスト」作成
- ・図書館 WEB サイト更新
- ・冊子資料の選書会を 2 回オンラインで開催 参加者数 8 名 選書冊数 93 冊
- ・図書館活用方法動画の作成
- ・メールおよび電話でのリファレンスサービス実施
- ・郵送による貸出サービス実施
- ・「読書ラリー」実施（目標：卒業までに 100 冊読もう）
- ・「図書館マナーアップキャンペーン」実施
- ・「図書館ブログ」実施
- ・図書館サポーター企画の本棚「モノクル」及び「ブクログ」を利用した「オンラインモノクル」実施
- ・流通科学大学 Libroさんと本学図書館サポーターの交流会を実施
- ・「授業目的公衆送信」に関する手続き実施
- ・学術機関リポジトリ「KARASHI-DANE」のシステム更新および運用
- ・図書館システム E-Cats のシステム更新
- ・御影中学校「トライやる・ウィーク」活動受入

(イ)学術研究委員会

- ・出版 機関誌 2 誌をオンラインで刊行（研究紀要 No.5、TALKS No.27）
- ・研修 「研究倫理研修」を 2023 年度着任教職員と大学院 1 年生を対象に「一般財団法人公正研究推進協会」のオンライン教材を利用して実施し、専任教員 8 名、大学院生 10 名、他合計 24 名が修了
- ・学術研究叢書管理 旧学術研究委員会発行松蔭学術研究叢書の処分
- ・APC 支払い状況調査
- ・コンプライアンス教育用のパンフレットにて粗悪ジャーナルへの論文投稿について注意喚起を実施

(15) 社会連携・社会貢献

社会連携・社会貢献に関する基本方針に沿った活動を下記のとおり実施した。

（※スペースの関係上、主な活動を記載）

- (ア)自治体、企業、団体、教育機関、博物館等と連携することで、本学及びこれらの機関が有する資源を活用し、地域社会の活性化に貢献する。(社会貢献)

連携機関	実施状況
神戸市地域子育て支援事業（まつぼっくり）	子育て支援フリースペースの実施（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）
神戸市灘区総務部地域協働課	灘区チャレンジ助成事業（こどもまつり in 神戸松蔭女子学院大学開催、公園での屋外遊びの実施、書道ワークショップの開催など） 「芸術・文化の薫るまち・灘」魅力発信事業補助金（KOBE タータンフェスタ開催） まや山ファミリーアドベンチャーへの協力、灘区デジタルマップの制作

神戸市北区	オオキンケイギク活用大作戦「グッバイ！イエロー！」協力
神戸市立ファッション美術館	ジョルジュ・バルビエや神戸松蔭タータンのグッズ販売、FHD 学科卒業作品の展示、インターカレッジファッションデザイナーズ 2023 参加
神戸市立博物館	大学祭においておきしお夢はこぶ号展示およびワークショップ開催
神戸青年会議所	KOBE AUTUMN FESTIVAL において地産地消スイーツ販売・ファッションショー実施
灘区連合婦人会	民踊春まつりににおいて FHD 学科ファッションショー実施
こども本の森 神戸	「くも」ワークショップ開催、ミニポートタワー展示およびワークショップ開催
KOBE とまり木	とまり木マーケットにおいて FHD 学科ファッションショー、服の交換会「マツクロ」実施

(イ)実践的教育研究活動を通して、地域における教育・研究の進展を図るとともに、地域社会に貢献できる人材を育成する。(人材育成)

具体的な方策	実施内容
授業公開講座	43 講座開講し 14 講座 17 名受講
神戸松蔭公開講座	前期 1 回（街場の達人クロストーク）、後期 2 回（神戸タータン・神戸松蔭タータン、バルビエおよびその時代）
夏休み子ども防災教室	神戸国際大学と共同で実施
Chat GPT 活用セミナー	神戸市、三田市、神戸商工会議所など
出張講義	7 校でのべ 8 回実施

(ウ)本学の教育研究活動の成果を地域社会及び産業界のニーズに結びつけることで、地域社会の活性化及び課題解決に貢献する。(産官学連携)

連携機関	実施状況
神戸市企画調整局	大学都市神戸産官学プラットフォームへの参画
株式会社大丸松坂屋百貨店（大丸神戸店）	大丸インテリア館ミュージエールにおいて展示・販売・ワークショップ開催（書道、ミニポートタワー、神戸松蔭タータン）
株式会社阪急阪神百貨店（宝塚阪急）	宝塚カレグラランプリ参加（本学オリジナルカレラの開発）
JA 兵庫六甲農業協同組合（伊川谷花卉青年部）	都市生活学科花田教授によるビオラプロジェクトとして、近隣施設へビオラ配付
西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）	都市生活学科学生が北陸カレッジに参加
神戸市中央卸売市場東部市場	東部市場フェスタへの出展
株式会社ユタックス	FHD 学科（教員・学生）による商品開発等の

	提案を実施
株式会社良品計画	ファッションショー、クッキングワークショップ、ヘクセンハウス展示、いつものもしも CARAVAN 神戸参加
株式会社ユニクロ	ユニクロ神戸三宮店ミニポートタワー展示
株式会社ほっかほっか亭総本部	春の幕の内弁当メニュー開発
兵庫県、フジッコ株式会社	「朝のたべるスープ」アレンジレシピコンテストフジッコ賞受賞

(エ)教育委員会、教育機関、大学コンソーシアムひょうご神戸等との教育支援や連携教育、スポーツ活動支援等を通して、相互の教育活動の充実及び地域社会における教育環境の向上に取り組む。

(高大連携、地域の教育機関等との連携)

連携機関	実施状況
兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会	高校生書道コンクール開催（日本語日本文化学科）
高大連携協定校 23 校	高大連携協定締結、23 校でのべ 104 回の講義を実施
大学コンソーシアムひょうご神戸	企画運営、高大連携、教育連携、FD・SD、学生交流、キャリア各事業委員会に参画

(16) 言語科学研究所

言語科学研究所の事業は次の活動からなっている。

(ア)機関誌 Theoretical and Applied Linguistics (TALKS) の発行

(イ)研修員・研修生の受け入れ

(ウ)国内外の研究者による研究発表会・研究講演会（コロキウム）の開催

(エ)ウェブサイトによる情報の発信

(ア)機関誌 Theoretical and Applied Linguistics (TALKS) の発行

紀要 Theoretical and Applied Linguistics (TALKS) No.27 を発行した。No.27 は 3 名の執筆者による 3 編の論文が掲載されている。2014 年からのアクセス解析によると、直近 10 年 (No.18-27) に出版されたもののうち、2018 年に出版された論文 1 編は 8000 ダウンロード越えている (2024 年 4 月 30 日時点。以下同じ)。また、この期間内で 5000～8000 ダウンロードが 4 編、2000～5000 ダウンロードも 3 編あり、本機関紙は言語学ならびに応用分野において学術的な資料としての機能を果たしているといえる。

(イ)研修員・研修生の受け入れ

2023 年度は客員研究所員 5 名を受け入れた。客員研究所員は紀要 TALKS に投稿のほか、学会発表など活発な研究活動を行っている。

(ウ)国内外の研究者による研究発表会・研究講演会（コロキウム）の開催

2023 年度は、2 月に小林隆東北大学名誉教授をお招きし、「言語科学研究所 2023 年度講演会」を開催した。対面・遠隔 (Zoom) のハイブリッド方式で開催したところ、対面では大学院生など、遠隔では遠方の研究者十数名の参加があり、盛会であった。また、所員たちの多くが科学研究費を獲得し、研究に取り組んでいる。

(エ)ウェブサイトによる情報発信

紀要 Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)は2019年(No.22)以降冊子を廃止し、神戸松蔭女子学院大学学術機関リポジトリを介して全論文を閲覧できるようにしている。

(17) 外国語教育センター

2023 年度外国語教育センターが実施した主な事業は次のとおり。

- ①全新入生への TOEIC Bridge IP TEST 実施 (4 月)、240 名
- ②TOEIC Bridge IP TEST による英語科目レベル別クラス分けの実施 (前期)
- ③事前登録、新入生外国語科目変更等、履修登録関係全般の業務を行った。
- ④英語科目履修者 (英語学科を除く) への TOEIC Bridge IP TEST 実施 (1 月)、184 名 一年間を通して学生の英語力の向上を測定すること、また学習に対するモチベーションを維持・向上させることを目的としている。
- ⑤各言語毎に連絡網を作成し、密に連絡を取り合って教授法などの交流を行った。
- ⑥2024 年度及び 2025 年度承認に向けてカリキュラムの見直しをした。
- ⑦全学希望者向け TOEIC IP オンラインテストを導入した。
 - a.年 2 回実施 (6 月 18 日～28 日 18 名、1 月 15 日～23 日 7 名参加)
 - b.年 1 回実施 10 月 24 日 11 名
- ⑧英語ネイティブ非常勤講師用ハンドブックを作成し配布した。
- ⑨外国語教育センター所員会議を実施した。
- ⑩年 7 回。5 月 18 日、6 月 15 日、7 月 20 日、10 月 12 日、11 月 16 日、12 月 8 日、2 月 1 日
- ⑪English Island 開室
- ⑫延べ利用者数
 - a.前期 4 月～7 月 436 名 (2%増加)
 - b.後期 9 月～1 月 544 名 (57%増加)
- ⑬外国語応援サロン開室
- ⑭延べ利用者数
 - a.前期 4 月～7 月 201 名 (19%増加)
 - b.後期 9 月～1 月 255 名 (36%増加)
- ⑮英語スピーチコンテスト開催 12 月 12 日 聴衆は対面で参加した。
- ⑯TOEIC Bridge 監督説明会を実施した。3 月 28 日 13:00～13:30。
- ⑰学内向け Web サイトの管理運営を行った。

(18) 情報教育センター

情報教育センターが 2023 年度に実施した主な事業は次の通りである。

(ア)情報教育・コンピュータ (Windows) 教室関係

- ①受講環境に関する Web アンケートを、入学直後の新入生を対象に実施した。
- ②SA (Student Assistant) 教育
 - ・4 名の SA が情報リテラシー I / II の授業補助を行った。
 - ・業務内容についてのオリエンテーションとスキルチェックを年度初めに実施した。
 - ・SA 勉強会を行い、SA のスキル向上を図った。
 - ・講義期間終了後に SA の活動を報告した。
 - ・年度末に SA を対象にアンケートを実施した。
- ③IT 機器ヘルプデスクにおいて、BYOD が導入された新入生を中心に 2791 件の案件に対応した。

- ④後期講義から Windows 教室の Office アプリのバージョンを最新の 2021 にアップデートした。
- ⑤2024 年度の講義から Windows 教室の OS を最新の Windows 11 とするために、年度末にメモリを増設して 16GB とした。

(イ)学内ネットワーク関係

- ①認証等の基幹サービスを提供しているサーバの更新を行った。
- ②学内 Wi-Fi への接続数を増やすために DHCP サーバの切り替えを行った。

(19) 神戸松蔭こころのケア・センター

神戸松蔭こころのケア・センターは、地域に開かれた心理相談機関として、臨床心理学の教育・相談・研究の実践および地域貢献を目的として活動している。

(ア)教育活動について

2023 年 3 月に本学大学院を修了した者 4 名のうち 4 名が、2023 年度の（公財）日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」資格試験に合格した（合格率 100%、全国の合格率 66.5%）。

また、国家資格である第 6 回公認心理師試験（2023 年 5 月 14 日実施）は、2023 年 3 月に本学大学院を修了した受験資格取得者 2 名のうち 2 名が合格した（合格率 100%、全国の合格率 73.8%）。本学出身の受験者総数は 5 名で、全体の合格者は 4 名であった（合格率 80%）。さらに、第 7 回公認心理師試験（2024 年 3 月 3 日実施）は、2024 年 3 月に本学大学院を修了した受験資格取得者 5 名のうち 4 名が合格した（合格率 80%、全国の合格率 76.2%）。本学出身の受験者総数は 5 名で、全体の合格者は 3 名であった（合格率 60%）。

(イ)心理相談活動について

2023 年度は新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症への移行に伴い、徐々に従前通りの相談体制に戻った。本年度における新規の相談申し込みは 50 事例（昨年度 62 事例）であった。相談回数は合計 1223 回（昨年度 1,109 回）であった。

(ウ)研究活動について

研究報告誌「神戸松蔭こころのケア・センター 臨床心理学研究 第 18 号」を 2023 年 6 月に刊行した。教員および修了生による学術論文を 2 点、センター相談スタッフおよび修了生による研究論文を 4 点掲載した。研究報告誌は、全国の公認心理師および臨床心理士養成指定大学院と学内外の関係者（コメンテーター、スーパーヴァイザー、本学教員など）に送付した。

また、修了生を対象に「ブラッシュアップ研修会」を、本学の元教員でもある山口大学の安達圭一郎教授を講師に招いて 3 月 2 日（土）に開催した。研修会への参加者は 51 名であった。

(エ)広報活動について

当センターを地域一般に認知し、利用していただけるように、無料相談会（秋季 10 月 2 日～10 月 13 日）を行った。神戸市教育委員会に周知を依頼し、灘区内の幼稚園へチラシを配布し、マスメディアへチラシの掲載を依頼した。無料相談期間中の相談受付数は 5 件であった。

(20) キャリア教育センター

(ア)キャリア教育センターは各学科・センター、特にキャリアサポートセンターと連携しながら、本学のキャリア教育の充実を目標に以下のような活動を実施し、学生一人ひとりが入学時（前）から卒業後も見据えて就職・進路に積極的かつ体系的に取り組めるように支援した。

入学時からの履修モデルとして「キャリアデザインプログラム」を提案し、キャリア系列科目として次の 11 科目を開講している。

「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「女性とキャリア形成」、「キャリアデザイン研究」、「ホスピタリティ・マネジメント」、「エアライン・ホスピタリティ」、「インターンシップ」、「簿記・会計の基礎」、「簿記・会計の実践」、「企業・職種・業界の基礎知識」、「ファイナンシャル・プランニング」

特に、「女性とキャリア形成」は2023年度からの新設科目である。「キャリアデザイン研究」と共に学外から多彩なゲスト・スピーカーを招聘し、学生のキャリアビジョンを描く上でのロールモデルとなった。

(イ)民間企業との連携

- ・(株)総合研究所と提携し、「ホスピタリティ・マネジメント (3 クラス)」、「エアライン・ホスピタリティ (1 クラス)」を開講した。また、客室乗務員やグランドスタッフをめざす学生の相談窓口として「エアライン相談室」を10回開設した。
- ・(株)ベネッセ i-キャリア提供のアセスメントテスト「GPS-Academic」を実施し、1年生は234人、3年生は304人が受検した。「問題を解決する力」の現状を「思考力」「姿勢・態度」「経験」という3つの観点で測定することを目的とし、1年次と3年次で同じテストを受検することで、自身の成長を図ることが出来る内容となっている。受検後はZoomにて、(株)ベネッセ i-キャリアの講師によるフォローアップガイダンスを実施した。

(ウ)課外講座

(株)東京リーガルマインドに委託し「資格サポートオフィス」を設置している。2023年度の資格・検定対策講座の受講者延べ人数は50名であった。受講申し込みがあった「MOS-Excel2019」、「MOS-Word2019」を対面で開講し、「ファイナンシャル・プランニング検定3級」と「医療事務講座」はオンラインで開講した。また、3年生対象「公務員試験対策講座」を12名が受講し、1・2年生対象「公務員対策基礎講座」は1年生1名、2年生3名が受講した。

(21) 教職支援センター

(ア)教職課程および保育士養成課程の認定状況

課程認定学科	資格・免許状種別
文学部 英語学科	中学校教諭一種免許状 (英語) 高等学校教諭一種免許状 (英語)
文学部 日本語日本文化学科	中学校教諭一種免許状 (国語) 高等学校教諭一種免許状 (国語) 高等学校教諭一種免許状 (書道)
人間科学部 都市生活学科	中学校教諭一種免許状 (家庭) 高等学校教諭一種免許状 (家庭)
人間科学部 子ども発達学科 ※2019年度に取り下げ (2023年度課程履修者あり)	保育士 幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状
教育学部 教育学科	保育士 幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状 (英語) 高等学校教諭一種免許状 (英語) 特別支援学校教諭一種免許状 (知的障害者) (肢体不自由者)

	(病弱者)
大学院文学研究科 英語学専攻	中学校教諭専修免許状 (英語) 高等学校教諭専修免許状 (英語)
大学院文学研究科 国語国文学専攻	中学校教諭専修免許状 (国語) 高等学校教諭専修免許状 (国語)

(イ)課程履修(登録)者数(単位:人)

課程履修登録者: 815名(5月1日現在)

課程・教科	1年 (123生)	2年 (122生)	3年 (121生)	4年 (120生) 過年度生	科目等 履修生	計
保育士養成課程	25	62	44	73		204
教職課程(幼稚園)	25	63	44	71		203
教職課程(小学校)	13	15	9	28		65
教職課程(中英語)E	2	0	3	5	2	12
教職課程(高英語)E	2	0	3	5	2	12
教職課程(中国語)	15	5	8	9		37
教職課程(高国語)	15	4	8	9		36
教職課程(高書道)	12	5	4	5		26
教職課程(中家庭)	9	9	11	6		35
教職課程(高家庭)	9	9	11	5		34
教職課程(特別支援)	17	29	20	17		83
教職課程(中英語) T	7	9	6	12		34
教職課程(高英語) T	7	9	6	12		34
教職課程(専修英語)						
教職課程(専修国語)						
計	158	219	177	257	4	815

(ウ)保育・教育実習に参加した学生数(単位:人)

	保育所	施設	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
実習生数	89	53	46	28	14	13	17	260

※ 中高一貫校については「中学校」に計上した

(エ)保育士資格および教育職員免許状(一種・専修)の授与件数

	保育士	幼稚園	小学校	中学校		高等学校		特別支援学校	合計
		一種	一種	専修	一種	専修	一種		
授与件数	67	66	21	0	21	0	26	14	215

(オ)就職実績

就職者数	保育士		保育教諭		幼稚園教諭		小学校教諭		中学校教諭		高等学校教諭	
	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他
	公－ 私 10	公－ 私 1	公 0 私 25	公－ 私－	公－ 私 13	公－ 私－	公 10 私－	公 6 私－	公 4 私－	公 1 私－	公 1 私 2	公 1 私－
	11		25		13		16		5		4	
	就職者	特支教諭		施設職員								
正規		その他	正規	その他								
公－		公 2	公－	公－								

数	私一	私一	私6	私1
	2		7	

(カ)教員採用試験対策セミナーの実施

教員採用試験対策講座8講座を次のとおり実施した。

講座名称	区分	対象学年	講座概要	利用人数
一般常識	前期	1年	ビジネスマナーなど	0名
LHR	前期	1・2年	教採対策合宿Ⅰの準備をするための講座	2名
一般教養基礎	前期	2年	日本史、世界史、地理、理科、数学を中心に学ぶ	12名
教職教養/SPI対策	後期	2年	教職教養の基礎・演習、SPIの基礎・演習	2名
教採総合演習①	前期	3年	筆記試験問題演習、論作文を中心に行う。 ※面接対策含む	3名
教採総合演習②	後期	3年	筆記試験問題演習、面接の基礎・演習	2名
直前対策講座	前期	4年	筆記試験、面接、模擬授業などの総合対策	2名
音楽実技	前期	4年	ピアノや弾き歌いなどの音楽実技の対策。	17名

(キ)教職支援センター年報

教職支援センター年報第8号を9月30日に発行した。

(22) 中期計画及び事業計画の進捗・達成状況

(ア)教育

2023年度授業については、学内でのマスク着用は原則として任意とし、キャンパス入構時の検温・手指消毒、マスク着用を全員に課すことは廃止し、授業や行事ごとに必要性に応じて対応することとした。また、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行したことから、授業や課外活動における配慮もインフルエンザ等他の学校感染症と同じ扱いに移行した。

2023年度から新しい大学中期計画（2023年-2027年）を掲げているが、教育分野に四つの項目を設けた。その一つが「互いを認め協働する社会を作るコミュニケーション力の養成」であり、その項目に三つの目標値を掲げた。そのひとつ「全学共通科目コミュニケーション系列科目の改編案を作成し、2025年度より開講」については、全学共通科目の2025年度開講科目案を2023年度中に決定した。コミュニケーション系列科目の「伝わる文章」と「ディベート演習」は前期開講のⅠと後期開講のⅡから構成され、前後期ともに履修することが推奨されているが、半期科目へと変更してどの学科の学生でも履修し易いよう変更することになった。「2026年度までにコミュニケーション関連個別相談サロンの利用者数を倍増」については、文章作成応援サロンと授業との連携案の作成に至っていない。個別相談サロンの相談員にふさわしい人材の確保ができていないためである。三つの目の目標値「2025年度からセメスター留学可能な学科を拡大」については、資格所得を学科の学びの中心としているため半期単位の海外留学が難しい食物栄養学科と教育学科以外の学科において認定留学という名称で実施することを2023年度に決定した。奨学金の付与を含めた規程の整備も進んでいる。

二つ目の項目「社会のデジタル化、データ利用の進展に対応できる力の養成」では四つの目標値を掲げた。目標値「BYOD対応科目を2027年度までに全学開講科目の70%以上に」については、free Wi-Fi、充電可能な自習スペース、相談態勢（IT機器ヘルプデスク）といった対応はほぼ終わっている。3月には、PC使用を前提とした授業運営のノウハウを共有するための説明会を行った。二つ目の目標値「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル認定を2025年度までに取得」については、2024年度入学生より全学共通科目「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」に代わ

って、数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度リテラシーレベルで要求される教育内容を含む「データサイエンス・AI リテラシー I・II」を開講することを決定した。この科目を全学科の1年生必修科目とし、数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度リテラシーレベル認定へ申請する条件が整った。残る目標値「Web デザインの知識と技術を用いた発信力を養成する科目を2025年度までに開設」と「Web デザインの知識と技術を利用した発信をサポートする体制を2025年度から運用」については、都市生活学科のデータ分析、社会調査科目、経済学、マーケティング論を2025年度から全学的に開放する方針を決定したが、Web デザインの知識と技術を用いた発信力を養成する科目の設定とサポート体制については2023年度中に検討することができず、進展が遅れている。

三つ目の項目「『新しい社会』を提案できる力の養成」では二つの目標値を掲げた。「授業数を2027年度までに2022年度に比して15%削減」については、2025年度に向けて全学共通科目の科目数の削減を行い、2021年度カリキュラムに比して2025年度は2割減となる予定である。専門教育科目については、資格取得などの必要性から学科によって進行度合いが異なるものの、科目数を削減しつつある。二つ目の目標値「ゼミ形式やPBL型授業担当教員の評価方法を2026年度に策定」については、2024年度中に評価方法を提案できるよう検討を進めているところである。

四つ目の項目「学修成果・教育成果の可視化」では四つの目標値を掲げた。「再構築したアセスメントポリシーを2025年度より運用」については、IR室においてアセスメントポリシーと学位授与の方針の関連性について検討するとともに、他大学のアセスメントポリシーの調査を行った。学位授与の方針との関連性を明確にしたアセスメントポリシーの公表と運用を1年前倒して実施する準備ができた。「学修ポートフォリオを改善し、2024年度より運用」と「ディプロマサプリメントを2025年度から発行」については、検討が進んでおらず準備が遅れている。四つ目の目標値「ディプロマ・ポリシーに沿った各学年の到達度を2024年度より公表」については、学科のディプロマ・ポリシーが学科専門科目を通じてどの程度修得されたかを示すレーダーチャートの作成をIR室において行い、学内公表できるようにした。

(イ) 学生生活

コロナ禍において大きな役割を果たした保健室は2023年度より委託業者を変更したが、概ね問題なく運営できている。学生支援については、改正障害者差別解消法が2024年4月より施行され、合理的配慮が義務化される。本学は、学生支援室を中心に合理的配慮の実績を積み重ねるとともに、合理的配慮に関するFD研修会を行ってきた。

中期計画では「学生参加による魅力的なキャンパス作り」の項目を設け、三つの目標値を掲げた。学生からの提案によるキャンパスの活性化を目指して「2024年度から提案を募集、2025年度からキャンパス作りを開始」という目標値を掲げ、活動場所の一つとして4号館1階の学生ホールの全面改修を行い、学生が運営できるカフェの設備を設置した。しかし、学生からの提案を募集する体制はまだ整っていない。二つ目の目標値「2023年度より松蔭CPの審査体制を見直し、2025年度にはコロナ前を越える採択件数に」については、審査体制や応募要件の検討にとどまっており、2023年度からの活動再開ができなかった。「学生ボランティア講座、ピアサポーター講座を2023年度から開設」についても、学生課内の体制が整わず開設が遅れている。

(ウ) 研究

中期計画において「研究の適正な実施と活性化」の項目を設け、三つの目標値を掲げた。「2023年度からデータ保管庫設置、2025年度に研究データポリシー公表」については、研究データの適正な保存管理が求められていることを受け、学内にデータ保管庫を設置してハードディスク等の外部記憶装

置による所属教員の研究データ管理を開始した。二つ目の目標値「2025 年度から学部学生に対する新たな倫理教育を実施」については、2024 年度より各学科の 1 年生必修科目である基礎演習科目において研究倫理教育をシラバス記載した上で実施すること決定した。「2025 年度に種目別採択率と同等の採択率」については、科研費に関する情報の提供や申請書類作成のための対策講座の実施等により本学からの応募は増加している。

(エ)社会連携

中期計画において「地域性に立脚した社会貢献」の項目を設け、三つの目標値を掲げた。「社会連携活動をサポートする体制を 2024 年度より運用」については、2024 年度より地域連携研究センターを設置し、地域連携研究センターの事務は共同教育支援課とすること、共同教育支援課は学科事務の担当でもあり、学科を越えた協力体制で地域連携を行っていくことを決定した。二つ目の目標値「チャペル奉仕グループの活動を 2024 年度にコロナ前の水準へ」については、コロナ禍で中断していたチャペル奉仕グループの任命を 2023 年に行い、ボランティア活動の再始動が始まった。「高大連携校への教員派遣を 2023 年度から本格化」については、各学科ともに高大連携協定を結んだ高校の授業への教員派遣を行い、高大連携が本格化している。

本学は、灘区への地域貢献、私立大学等改革総合支援事業に採択されている「ひょうご産官学連携協議会」の取り組みなど社会連携を活発に行ったが、「地域性に立脚した社会貢献」をさらに進めるため「大学都市神戸 産官学プラットフォーム」に参加した。神戸市と神戸市内の国公立 10 大学、企業などが連携し、神戸市の人口減などの社会課題解決に取り組む組織であり、2024 年 1 月に設立総会が開かれた。いくつものプロジェクトが始まったが、本学は神戸外国人高度専門人材育成プロジェクトへの取り組みを開始している。また本学は、ムーミンキャラクターを地域貢献に活かすため、Tove Jansson を著作者とする「ムーミン」シリーズに含まれる、ムーミン一家とそれに関連するキャラクター及びその他の著作物を広告等で使用できる契約を結んだ。

(オ)大学運営

大学運営分野には六つの項目を設けた。その一つが「内部質保証システムの強化」であり、「2025 年度までに改善及び規定の整備を行い、2026 年度に改善報告書を提出」の目標値を掲げた。教学委員会と教学マネジメント会議の連携や役割分担については、2024 年度より教学委員会を学長室会議の方針の下に教学の運営を行う大学運営委員会に改め、教学マネジメント会議の役割を教育・研究に関する検証・評価を踏まえて方針を検証し、改善策の提案を行う体制とすることを決定した。

二つ目の項目「持続可能なキャンパスへの整備」については二つの目標値を掲げた。「2027 年度までに個別空調及び蛍光灯の LED への転換を完成」については、計画通りに進行している。「廃棄物分別新方針を 2024 年度までに策定」については、策定が遅れており、新方針を 2023 年度中に決定することができなかった。

三つ目の項目「新学科設置による募集力強化と入学定員管理」については、「2025 年度新学科開設」という目標値を掲げていた。新学科設置プロジェクトを置いて検討した結果、2025 年度は英語学科をグローバルコミュニケーション学科に、都市生活学科を人間科学科へと名称変更し、2025 年度の新学科設置は行わないこととなった。「2027 年度に安定した収容定員管理」については、2025 年度から大学を共学化して名称を「神戸松蔭大学」に変更し、食物栄養学科を学生募集停止することを決定した。大学入学定員は 2024 年度の 460 名から 2025 年度には 400 名へと変更し、定員充足率の向上を図る。

四つ目の項目「事務組織のデジタル化推進と事務システムのパッケージ化」については、二つの目標値を掲げた。「2025 年度までにペーパーレス化、2026 年度にノート PC 中心に移行」については、

職員使用 PC をデスクトップからノートへの移行を進めている。大学院委員会など一部会議についてはペーパレス化を実施している。「新システムを 2026 年度から運用開始」については、2023 年度は大学事務総合パッケージソフトの比較を行い、候補を絞り込んだ。

五つ目の項目「教職員の勤務評価改善」については、三つの目標値を掲げた。「教員の労務管理を 2025 年度から実施」については、第 3 種契約専任教員の出校日管理など労務管理の改善を行ったが、教員全体の労務管理については他大学の事例を調査したものの、管理案の提案には至っていない。「教員の新しい勤務評価を 2026 年度から実施」と「職員の新しい勤務評価を 2025 年度から実施」については、検討を進めることができなかった。

六つ目の項目「少子化進行に対応した財務計画」については、二つの目標値を掲げた。「財務計画案を 2024 年度より段階的实施」については、新規教職員の採用の抑制など支出を減らす努力を行い、2024 年度の人件費支出減を見込んでいる。しかし、定員充足率の改善が計画通りに進まず、単年度の財務計画の作成に留まっている。私立大学等改革総合支援事業の「タイプ 3 の選定の継続とタイプ 1 の 2025 年度の採択」については、令和 5 年度は、タイプ 3 は採択されたもののタイプ 1 は不採択であった。タイプ 1 の採択は簡単ではないが、可能性を高めるために継続して申請を行うとともに、学内規程の改正などを行った。

以上

Ⅲ 財務の状況

1. 決算の概要

(1)貸借対照表関係

(ア)貸借対照表の状況と経年比較

単位：千円

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
有形固定資産	16,567,917	16,332,669	16,401,807	15,073,431	14,969,427
特定資産	5,772,241	5,775,476	5,682,987	6,680,349	6,488,729
その他固定資産	95,158	88,203	89,205	75,919	70,268
固定資産計	22,435,315	22,196,348	22,173,999	21,829,700	21,528,423
現金預金	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413	2,334,739
その他流動資産	27,226	61,132	39,155	42,941	50,670
流動資産計	3,644,631	3,485,630	3,276,278	3,094,354	2,385,409
資産の部合計	26,079,946	25,681,978	25,450,277	24,924,054	23,913,832
長期借入金	227,700	204,930	182,160	159,390	136,620
退職給与引当金	692,377	676,392	688,944	685,505	695,712
その他固定負債	24,338	10,341	10,341	10,341	10,341
固定負債計	944,415	891,663	881,445	855,236	842,673
短期借入金	52,860	22,770	22,770	22,770	22,770
未払金	34,149	6,489	8,081	53,757	11,430
前受金	1,084,183	1,012,307	898,073	707,760	554,563
その他流動負債	166,586	218,950	230,670	267,632	226,918
流動負債計	1,337,778	1,260,516	1,159,594	1,051,920	815,681
負債の部合計	2,282,193	2,152,179	2,041,039	1,907,155	1,658,354
1号基本金	25,342,883	25,362,784	25,849,752	24,358,459	24,610,084
2号基本金	0	0	0	0	0
3号基本金	311,214	311,214	311,214	311,214	311,214
4号基本金	284,000	284,000	284,000	284,000	284,000
基本金計	25,938,097	25,957,998	26,444,967	24,953,673	25,205,299
繰越収支差額	△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729	△ 1,936,775	△ 2,949,821
純資産の部合計	23,797,753	23,529,798	23,409,238	23,016,898	22,255,477
負債及び純資産の部合計	26,079,946	25,681,978	25,450,277	24,924,054	23,913,832

(イ)財務比率の経年比較

単位：千円

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
基本金要組入額	△ 16,694	19,901	464,199	△ 1,491,294	251,626
基本金組入額	△ 16,694	19,901	486,969	△ 1,491,294	251,358

運用資産	9,389,645	9,199,974	8,920,110	9,731,762	8,823,467
外部負債	314,709	234,189	213,011	235,917	170,820
減価償却累計額	9,173,585	9,374,915	9,773,254	9,592,766	9,928,117
要積立額	10,177,176	10,362,522	10,773,412	10,589,485	10,935,043

(2)資金収支計算書関係

(ア)資金収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金収入	2,855,889	3,049,960	2,942,036	2,700,256	2,195,171
手数料収入	48,805	35,562	30,553	24,307	18,176
寄付金収入	12,081	7,982	18,661	23,674	13,744
補助金収入	484,801	682,629	696,585	673,780	554,684
資産売却収入	81,400	1,178,627	0	1,280,605	175,576
付随事業収入	1,055	145	242	155	150
受取利息・配当金収入	110,975	109,858	122,426	143,525	165,007
雑収入	78,770	251,795	159,974	117,731	77,408
借入金収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,084,183	1,012,307	898,073	707,760	554,563
その他の収入	328,287	417,102	492,014	496,936	398,704
資金収入調整勘定	△ 1,103,248	△ 1,121,051	△ 1,027,346	△ 913,507	△ 719,695
前年度繰越支払資金	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413
収入の部合計	7,684,298	9,242,321	7,757,716	8,492,346	6,484,902

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費支出	2,310,098	2,535,663	2,411,536	2,291,217	2,166,575
教育研究経費支出	683,142	966,700	832,221	863,947	778,773
管理経費支出	470,129	340,700	402,239	414,650	397,920
借入金等利息支出	4,415	3,701	3,176	2,842	2,507
借入金等返済支出	52,760	52,860	22,770	22,770	22,770
施設関係支出	54,631	238,079	429,393	99,087	237,496
設備関係支出	72,457	122,991	65,189	70,516	59,348
資産運用支出	106,754	1,283,668	93,177	1,424,349	81,628
その他の支出	358,243	295,584	281,078	316,077	424,462
資金支出調整勘定	△ 45,735	△ 22,123	△ 20,185	△ 64,522	△ 21,316
次年度繰越支払資金	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413	2,334,739
支出の部合計	7,684,298	9,242,321	7,757,716	8,492,346	6,484,902

(イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,473,144	4,000,837	3,831,578	3,530,389	2,851,540
教育活動資金支出計	3,463,368	3,843,063	3,645,996	3,569,814	3,343,269
差引	9,776	157,773	185,582	△ 39,425	△ 491,729
調整勘定等	△ 30,400	△ 76,822	△ 93,691	△ 147,160	△ 196,437
教育活動資金収支差額	△ 20,623	80,951	91,891	△ 186,585	△ 688,165
施設整備活動による資金収支					
施設整備等活動活動資金収入計	89,657	1,133,737	16,472	940,145	7,793
施設整備等活動活動資金支出計	181,147	1,438,882	494,582	1,510,948	296,843
差引	△ 91,491	△ 305,145	△ 478,110	△ 570,803	△ 289,050
調整勘定等	0	△ 25,802	6,352	5,151	△ 590
施設整備等活動資金収支差額	△ 91,491	△ 330,947	△ 471,758	△ 565,652	△ 289,640
その他活動による資金収支					
その他の活動活動資金収入計	434,000	595,268	577,572	975,398	747,597
その他の活動活動資金支出計	430,297	513,880	385,080	408,871	461,274
差引	3,703	81,388	192,491	566,527	286,322
調整勘定等	24,515	△ 24,299	0	0	△ 1,448
その他の活動資金収支差額	28,218	57,090	192,491	566,527	284,874
前年度繰越支払資金	3,701,301	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413
翌年度繰越支払資金	3,617,404	3,424,498	3,237,123	3,051,413	2,334,739

(ウ)財務比率の経年比較

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動資金収支差額比率	-0.6%	2.0%	2.4%	-5.3%	-24.1%

(3)事業活動収支計算書関連

(ア)事業活動収支計算書の状況と経年比較

単位：千円

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,855,889	3,049,960	2,942,036	2,700,256	2,195,171
	手数料	48,805	35,562	30,553	24,307	18,176
	寄付金	3,824	6,820	3,855	14,930	9,228
	補助金	484,801	656,554	694,919	673,780	554,684
	付随事業活動収入	1,055	145	242	155	150
	雑収入	79,503	251,795	160,071	117,731	77,408
	教育活動収入計	3,473,878	4,000,837	3,831,675	3,531,159	2,854,817
	事業活動支出の部					
	人件費	2,334,372	2,505,680	2,424,087	2,287,778	2,176,783
	教育研究経費	1,070,291	1,345,534	1,220,801	1,256,619	1,145,171
	管理経費	515,430	380,025	438,050	451,475	433,581
	徴収不能額等	0	405	0	0	0
	教育活動支出計	3,920,092	4,231,644	4,082,938	3,995,872	3,755,535
	教育活動収支差額	△ 446,214	△ 230,808	△ 251,263	△ 464,713	△ 900,718
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	108,572	107,512	120,128	141,180	162,662
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	108,572	107,512	120,128	141,180	162,662
	事業活動支出の部					
	借入金等利息支出	4,415	3,701	3,176	2,842	2,507
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	4,415	3,701	3,176	2,842	2,507
	教育活動外収支差額	104,157	103,811	116,952	138,338	160,154
経常収支差額		△ 342,057	△ 126,996	△ 134,311	△ 326,375	△ 740,564
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	70,130	27,819	0	64,811	0
	その他特別収入	10,357	28,381	17,701	10,087	8,550
	特別外収入計	80,487	56,200	17,701	74,898	8,550
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	99,369	197,159	3,950	140,862	29,408
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	99,369	197,159	3,950	140,862	29,408
	特別収支差額	△ 18,882	△ 140,959	13,751	△ 65,965	△ 20,858
基本金組入前当年度収支差額		△ 360,939	△ 267,955	△ 120,560	△ 392,340	△ 761,421
基本金組入額合計		0	△ 19,901	△ 486,969	△ 27,138	△ 251,626
当年度収支差額		△ 360,939	△ 287,856	△ 607,529	△ 419,477	△ 1,013,047
前年度収支差額		△ 1,796,099	△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729	△ 1,936,775
基本金取崩額		16,694	0	0	1,518,431	0
翌年度収支差額		△ 2,140,344	△ 2,428,200	△ 3,035,729	△ 1,936,775	△ 2,949,821

(イ)財務比率の経年比較

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費比率	65.2%	61.0%	61.3%	62.3%	72.1%
教育研究経費比率	29.9%	32.8%	30.9%	34.2%	38.0%
管理経費比率	14.4%	9.3%	11.1%	12.3%	14.4%
事業活動収支差額比率	-9.9%	-6.4%	-3.0%	-10.5%	-25.2%
学生生徒納付金比率	79.7%	74.2%	74.4%	73.5%	72.7%
経常収支差額比率	-9.5%	-3.1%	-3.4%	-8.9%	-24.5%

(4)その他有価証券の状況

単位：円

	当年度(令和6年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,603,257,238	3,376,216,361	772,959,123
(うち満期保有目的の債券)	(1,162,858,319)	(1,241,403,100)	(78,544,781)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	3,047,658,217	2,437,627,000	△ 610,031,217
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
合 計	5,650,915,455	5,813,843,361	162,927,906
(うち満期保有目的の債券)	(1,162,858,319)	(1,241,403,100)	(78,544,781)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	5,650,915,455		

(5)借入金の状況

単位：円

種類	期末残高	利率	償還期限
[長期借入金] 日本私立学校振興・共済事業団	136,620,000	1.45%	令和12年9月15日
[短期借入金] 日本私立学校振興・共済事業団	22,770,000	1.45%	令和4年9月15日
合 計	159,390,000		

日本私学振興・共済事業団、兵庫県私学振興協会から、松蔭中学校・高等学校の耐震改修工事費用として借入を行っている。上記短期借入金は、長期借入金の1年以内返済分である。

(6)学校債の状況

学校債の発行はない。

(7)寄附金の状況

個人・団体等から以下のとおりの寄附金を受領した。 単位：円

	金 額	寄付者・内容
一般寄付金	2,595,000	個人
特別寄付金	3,356,000	個人・任意団体等
施設・設備寄付金	7,793,103	個人
現物寄付金	4,034,198	図書・機器備品
合 計	16,733,301	

(8)補助金の状況

	金 額	内 容
経常費補助金	256,812,600	文部科学省
施設設備補助金	821,000	文部科学省
地方公共団体補助金	297,050,720	神戸市ほか
科学研究費補助金	15,582,200	文部科学省 採択課題37件
合 計	570,266,520	

経常費補助金には、高等教育の修学支援に係る授業料減免等交付金 107,582,600 円を含む。

(9)収益事業の状況

収益事業は行っていない。

(10)関連当事者との取引の状況

単位：円

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権所有割合	関係内容		取引内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人 (注)	社会福祉法人 松蔭ミカエル 福祉会	神戸市 東灘区	—	認定子ども 園の経営	社会福祉法人であることから議決権の所有割合は定められておりません	兼任1名	—	当法人所有土地の使用 貸借契約	—	—	—

(11)学校法人間財務取引

学校法人間の財務取引はない。

2. 経営状況の分析と経営上の課題

[経営状況の分析]

- ・令和5年度の資金収入では、大学の入学者・在籍者数が減少したことで学生生徒等納付金収入が約505百万円前年比減収となった。(以下の計数は前年度との増減で示す)
- ・手数料収入は入学検定料の減少等により減収となった他、寄付金収入は学院創立130周年記念事業が終了したことで約11百万円減収、補助金収入も主に大学の在籍者数減により経常費補助金が減額されたことで減収となった。
- ・資産売却収入は、特定資産で運用していた投資信託の満期償還分である。前年度は松蔭大学会館 売却

があったことにより大幅に変動しているが、いずれも一過性の要因である。

- ・受取利息・配当金は、債券利回りの上昇と為替レートの円安によって約 21 百万円の増収となった。
- ・雑収入の減収は退職者数の減少による退職金財団からの交付金減によるものである。退職金支払額と両建てとなるため、全体では資金収支への影響はない。
- ・前受金収入は学生生徒数減少により約 153 百万円減収となった。
- ・資金支出では、人件費支出が退職者減と実績連動型賞与支給額の減少により約 125 百万円減少した。
- ・教育研究経費支出は、業務プロセスの見直しとコスト適正化を推進した結果、約 86 百万円支出を抑制する結果となった。また、管理経費支出では、大学の共学化と学科再編対応費用が発生したが全学的にコスト削減を進めたことで約 17 百万円減少した。
- ・施設関係支出等の設備投資は空調設備個別化や水回りの改修等の教育環境改善に向けた設備投資が中心である。設備関係支出は、主に ICI 機器の入れ替えや教室設備の改修によるものである。資産運用支出は、中高における特定資産への繰り入れ支出である。
 - ・事業活動収支では、投資信託の満期償還による売却損 25 百万円を計上しているが、本年度限りの特殊要因である。

[経営上の課題]

- ・中高・大学共に学生生徒数が伸び悩んでいることで資金面並びに収支面の双方において厳しい状況が続いている。
- ・少子化が漸進していく中で入学者数の大幅な増加を見込むことはできないため、抜本的な構造改革と収入に応じた経営規模適正化が急務である。
- ・その一環として、大学では、共学化と学科再編を実施することを決定しており、2025 年度の開始に向けた対応に注力しているところである。また、中学校・高等学校においては有力私立大学との提携や訴求力のある教育プログラム開発を進めており、生徒数の増加トレンドを維持すべく取り組んでいく。
- ・加えて、受取利息・配当金など収入増加や科研費等の競争的資金獲得に留まらず、私立大学等改革 総合支援事業による補助金獲得や寄付金の継続的な積み上げといった取り組みにも注力していく ことが必要である。
- ・上記施策効果が具現化するまでは経費先行となることから、経営環境に見合った適正人員への移行、経費総額シーリング制導入によるコスト削減、学生生徒募集と合理化に資する設備投資案件の厳選といった財政規律を重視した運営を徹底していく。
- ・特定資産を中心に財政面のバッファがある間に構造改革を推進していく必要があるが、経費コントロールを重視する余り教育環境充実が制限されることがない様に留意しつつ学校経営を行っていくことが課題である。

3. 財産目録

科 目	年 度		令和 5 年 3 月			令和 6 年 3 月		
一. 基 本 財 産				14,057,570,594	円		13,929,613,818	円
1 . 土 地								
(1) 大 学 校 地		44,321	㎡	3,006,585,920	円	44,321	㎡	3,006,585,920 円
(2) 中 高 等 学 校 校 地		13,522	㎡	385,483,264	円	13,522	㎡	385,483,264 円
(3) 運 動 場		38,564	㎡	3,844,312,324	円	38,564	㎡	3,844,312,324 円
(4) そ の 他		33,772	㎡	50,529,495	円	33,772	㎡	50,529,495 円
計		130,179	㎡	7,286,911,003	円	130,179	㎡	7,286,911,003 円
2 . 建 物								
(1) 校 舎		44,256	㎡	2,932,308,105	円	44,256	㎡	2,867,004,925 円
(2) 図 書 館		4,155	㎡	195,216,085	円	4,155	㎡	180,414,911 円
(3) 体 育 館		7,832	㎡	692,137,586	円	7,832	㎡	649,989,047 円
(4) そ の 他		1,802	㎡	111,684,709	円	1,802	㎡	103,742,020 円
計		58,044	㎡	3,931,346,485	円	58,044	㎡	3,801,150,903 円
. 図 書		526,613	冊	2,590,670,030	円	530,433	冊	2,595,345,389 円
. 教具・工具及び備品		6,960	点	205,723,032	円	6,068	点	204,375,479 円
. そ の 他				42,920,044	円			41,831,044 円
二. 運 用 財 産				10,085,091,355	円		9,180,018,479	円
1 . 預 金・現 金				3,051,413,024	円		2,334,738,531	円
現金				7,078,388	円		7,682,630	円
普通預金				2,978,334,636	円		1,961,055,901	円
定期預金				66,000,000	円		366,000,000	円
2				6,685,037,721	円		6,493,359,165	円
3 . 不 動 産				276,469,297	円		276,469,297	円
4 . 未収入金・前払金・その他				72,171,313	円		75,451,486	円
三. 負 債 額				1,907,155,262	円		1,658,354,487	円
1 . 固 定 負 債				855,235,616	円		842,673,011	円
(1) 日本私立学校振興・共済事業団				159,390,000	円		136,620,000	円
(2) 兵庫県私学振興協会				0	円		0	円
(3) 退 職 給 与 引 当 金				685,504,509	円		695,711,904	円
(4) 退 職 預 り 金				10,341,107	円		10,341,107	円
2 . 流 動 負 債				1,051,919,646	円		815,681,476	円
(1) 短 期 借 入 金				22,770,000	円		22,770,000	円
(2) 前 受 金				707,760,400	円		554,563,400	円
(3) 未 払 金				53,757,217	円		11,430,482	円
(4) 預 り 金				267,632,029	円		226,917,594	円
四. 基 本 財 産 + 運 用 財 産				24,142,661,949	円		23,109,632,297	円
五. 純 資 産 (四 - 三)				22,235,506,687	円		21,451,277,810	円
総負債 (三) - 前受金				5.0	%		4.8	%
総 資 産 (四)								

4. 監事の監査報告書

監事監査報告書

令和6年5月16日

学校法人 松蔭女子学院
理事長 中村 豊 殿

学校法人 松蔭女子学院
監事 山口 純
監事 光葉 正博

私も監事は、私立学校法第37条第3項に基づき、学校法人松蔭女子学院の令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査した。

1. 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、計算書類の記載と合致していると認めます。
2. 資金収支計算書、事業活動収支計算書類及び貸借対照表（左記いずれも付属明細書を含む）ならびに財産目録は、法令及び寄附行為に従い、学校法人の財産及び経営の状況を正しく示しているものと認めます。
3. 学校法人松蔭女子学院の業務に関する決定及び執行又は理事の業務執行は適切であり、業務若しくは財産又は理事の業務に関する不正の行為、または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実は認めません。

以上

IV 対処すべき課題

1. 中学校・高等学校の教育関係

中学2ストリーム、高校3コースの各教育課程において、スクールモットー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーおよび各年度学校運営方針を落とし込み、具体化させることを継続する。その作業が学校全体の教育力を向上させ、選ばれる私学として生徒募集活動にも有効に作用する。次代を見据えた新しい学校づくり、私学としての更なる特色教育づくりの実現は、学校存続の鍵である。

2. 中学校・高等学校の生徒募集計画

関西地区において中学受験率は上昇しているが、少子化・出生者数の急減とともに実受験者数は減少傾向にある。さらに女子校の志願者・受験者減の傾向も続いており、生徒募集状況は厳しい。中学GS、高校GL、高校AAコースでは、1クラス10名台の生徒数となっている。これは経営を圧迫し改善が必須である。これらのクラスについては共学化など、定員充足率を上げる施策を検討する必要がある。また、私学としての特色教育、他私学には無い教育内容を作り上げ、志願者、入学者の増加させなければならない。在籍生徒数の増加は喫緊の課題である。

(ア) 中学の生徒募集

DS入学者数は過去4年間、増加傾向（2021年度59→2022年度61→2023年度64→2024年度67）にある。次年度入試ではこれを継続させるとともに、GS入学者数増加をねらい募集活動を行う。小学生対象英語講座（松蔭ELS講座）受講生の確保（例年の30名程度を50名へ）、図書館の地域開放「小学生対象サタデーライブラリー」の広報、将来の高校AAコース、GLコースへの進学を見据えた広報を強化する。（2024年度は、中学DSより3コースすべてに進学者あり）小学校課程のインターナショナルスクールや英会話塾との連携をはかり、「中学受験市場」を拡大し受験層を拡げ、いわゆる「中学受験率」を首都圏並みに上昇させる必要がある。

なお、GSで連携している聖ミカエル国際学校のサタデースクール受講生（小学生）の多くが公立中学校に進学している。これら生徒・保護者に対してもGS入学・転入制度の紹介を行う。

(イ) 高等学校の生徒募集

高校募集人数（約50名）の充足が喫緊の課題である。LSコースは各中学校への広報、AAコースはより幅広い種目の各団体への広報を強化する。高校GLについては、在校生の教育成果を積極的にアピールする。公立高校の国際科やグローバル探究系学科の志願者全般に対する募集活動を強化する。

3. 中学校・高等学校の施設・整備関係

(ア) 校内設備の整備

今年度はICT関連の整備として、ファイルサーバーの更新とPC教室更新を行う。

(イ) 校内の老朽箇所の改善を図る為のメンテナンス工事

プールろ過装置補修工事を実施する。

4. 大学の新学部・新学科等の増設等

近年の収容定員未充足からの脱却を図るために、2025年度より共学に伴う大学名称の変更に合わせて、2学科の名称変更を行う。具体的には、英語学科はグローバルコミュニケーション学科に、都市生活学科は人間科学科に変更する。この変更により、学科における学びがより高校生に伝わりやすくなることが期待される。

また、2026年度以降の改編については現在も引き続き検討を行っている。

なお、人間科学部食物栄養学科については、2024年度入学生をもって学生募集を停止した。あわせて、文学研究科英語学専攻（修士課程）については、2023年度入学生をもって学生募集を停止した。ま

た、人間科学部生活学科、人間科学部子ども発達学科、文学研究科英語学専攻（修士課程）については、2024 年 3 月に在籍する学生がいなくなったため廃止とした。

5. 大学の教育・研究関係

国という枠を超えて多様性への認識を深め、協働していくために、コロナ禍で停滞していた国際交流を活性化させつつある。一方、国際情勢の変化、海外協定大学の改組等により、新たな協定校を開拓する必要性が生じつつある。現在、新たに台湾の大学との協定締結を目指している。

学習成果の把握、教育の質の可視化を目的としてアセスメントポリシーを定めているが、大学基準協会による 2022 年度大学評価(認証評価)において、学位授与方針との関連が明確でないとの指摘を受けた。このため、アセスメントポリシーを再構築し、学位授与方針との関連を明確にする形にするべく検討を行ってきた。一方、2025 年度から共学化するため、“女子教育”を中心に据えた考え方からの変更など、ディプロマ・ポリシーを改正する必要がある。そこで、アセスメントポリシーもこれと連動させながら再構築する。

学習成果の可視化について、学生に対してディプロマサプリメントを発行することを目指して検討を行っている。まず、大学としての教育成果の公表について、ディプロマサプリメントに沿った各学年の学修到達度を示すレーダーチャートを作成した。今後、試験的に公表し、改善する予定である。

研究倫理をわかりやすいシチュエーションで解説した動画、「人研究倫理教育 e-learning 教材：情報や資料を活かすために、あらかじめ知っておきたいこと ―信頼・協働・責任― <全 4 編>」を研究倫理委員会で作成した。各学科の導入教育および卒業研究、卒業論文等の指導でこの動画を活用し、人を対象とする研究における倫理教育を進めていく。

6. 大学の学生募集計画

2024 年度新入生の募集については 186 名（定員 460 名、定員充足率 40.4%）の入学となり、2023 年度入試以上に厳しい結果となった。今後の 18 歳人口の動向をみると、既に本格的な減少期に入り、年 2 万人以上のペースで減少が続くと予想される。また、受験生の進路行動をみても前年度以上に年内入試へのシフトが加速しており、こうした変化に対応することが求められる。2025 年 4 月に共学へ移行および入学定員が 460 名から 400 名に削減することをふまえて、2025 年度入試については、男子学生等、新たに対象となる受験生への広報を強める等、定員確保に向けて学生募集戦略を抜本的に見直し、入学定員確保に向けて進めていく必要がある。

現状を鑑み、2025 年度入試は、前年度に引き続き新たな入試制度を導入し、学生募集強化の方策を構築していくこととする。

具体的な方策は、以下のとおりである。

①総合型選抜に、公募制、小論文型を新設。

②総合型選抜の探究評価型に奨学金制度を設け、探究学習活動に積極的に取り組んだ受験生の獲得を狙う。

③広報面については、公式サイト、SNS の活用や動画による本学の情報発信を引き続き推し進める。

④高校訪問では、訪問高校数を増やし、進学ガイダンス等では、実施回数を増やす。それにより、高校教員および受験生や保護者との接触機会を増やしていく。

⑤大学案内の他、テレビ CM の実施等、共学移行を全面的に打ち出し、本学の認知度の向上ならびに志願者数増加を図る。